

### (1) CS (視聴者満足) 活動

2005年度より、NHKでは本部および全国の放送局で「CS (視聴者満足) 活動」に取り組んでいる。この活動は、視聴者の要望や意見をきちんと受け止め、それを基にして、各現場が主体的に放送番組や業務の改革・改善を進め、視聴者サービスのより一層の向上を図ることが目的である。

「視聴者の声」を「経営資源」として、意向を的確に把握し、適切かつ迅速に業務に反映することに取り組んでいる。主な取り組みは、年1回・視聴者事業局が発行する「NHK視聴者ふれあい報告書2013」などで、視聴者に向けて報告した。

### (2) 事業活動

公共放送NHKだからこそできる多彩な公開番組やイベントを全国各地で展開し、視聴者との結び付きの強化を図った。イベント参加者へのアンケートでは、イベント満足度は全国平均で80%超、NHKの事業活動への理解促進度は70%超と、いずれも高位の数値を得るとともに、アンケートの結果を踏まえ新たなイベントの企画に生かすPDCAサイクルを推進した。

『大河ドラマ』や『NHKスペシャル』などの番組と連動したNHKならではの展覧会を開催した。特に、特別展「深海—挑戦の歩みと驚異の生きものたち—」では、13年1月に放送された『NHKスペシャル』「世界初撮影! 深海の超巨大イカ」で、生きたダイオウイカの映像を放送したことから巻き起こったブームの中で、全長約5メートルのダイオウイカや深海に暮らす驚異の生き物たちの標本などを通して、深海の世界を紹介した。

また、「NHK音楽祭2013」「NHKバレエの饗宴2014」を開催するなど、国内外の優れた芸術や文化を紹介する事業に努め、“ホンモノの魅力”に触れる機会を積極的に創出した。

「防災」「環境」「福祉」「食料」などの社会的な課題を視聴者に訴えるキャンペーンや、未来を担う若い世代を対象としたイベントサービスや若い世代に向けたイベント、東日本大震災の被災者に向けた取り組みを積極的に推進した。

こうした活動を通して、1,024万人の視聴者との交流を深めた。

### (3) 積極的な情報公開の推進と個人情報の適切な取り扱い

視聴者への説明責任を果たすために、積極的な情報公開に努めた。番組制作費については、テレビ4波を10ジャンルに分け、決算では各ジャンル

別の番組制作費の総額(トータルコスト)を公表し、予算ではジャンル別の番組1本当たりの制作単価の目安を公表した。また、放送事業全体についての視聴者からの疑問に答えるため、「よくある質問集」をホームページ上に掲げ情報提供を行うとともに、随時内容の充実を図っている。そのほか、事業や財務に関して、59の文書を各放送局の窓口等に備え置き、ホームページ上にも掲載している。(表1)

また、個人情報保護法の趣旨を踏まえ、NHKとして、保有する視聴者の個人情報の適切な取り扱いに努めた。

### (4) 広報活動

NHKに対する理解を得ながら信頼を高め、放送番組の視聴促進を図るため、事業運営や放送番組に関する広報活動を行った。

会長就退任、ハイブリッドキャスト、8Kスーパーハイビジョン、東日本大震災関連の取り組み、放送機能強化、ソチオリンピック・パラリンピック等について重点的に広報するとともに、『大河ドラマ』『連続テレビ小説』『紅白歌合戦』等の放送番組のPRを中心に、多彩な広報を展開した。

### (5) 営業活動

13年度は、単身世帯等の面接困難世帯の増加、継続的な生活保護世帯の増加など営業活動を取り巻く環境は厳しい状況にあったが、3か年経営計画の2年目として営業改革を着実に進めるなど放送受信契約の増加と受信料の確実な収納に全力で取り組んだ。

より効果的・効率的な営業活動を推進するため、契約・収納体制については、法人への委託を積極的に進めた。あわせて、各種法人・団体との連携に取り組み、10月からは「NTT電話料金との一括支払い」、12月からは「『Yahoo! 公金支払い』を通じた受信料支払い」について、それぞれ運用を開始した。

なお、民事手続きによる支払督促の申し立てについては、全国で1,513件実施し、これまでの累計で5,573件の申し立てを行った。その後も支払いに応じなかった163件については強制執行の申し立てを行った。未契約者に対する民事手続きについて、49件提起し累計で107件となった。

契約総数は、年度内に58万件(有料無料計)増加し、13年度末の契約総数(有料無料計)は4,141万件となった。

衛星契約については、設置確認メッセージの活用や契約案内メッセージの全国展開、ケーブルテ

レビ事業者と連携した活動の展開等により、年度内に86万件（有料無料計）増加し、13年度末の衛星契約数（有料無料計）は、1,823万件となった。

口座振替等については、年度内に76万件増加し、13年度末の利用件数は3,735万件となり、利用率は、96.4%となった。

表1 公表の取り組み

公表している情報	公表方法			
	文書の備え置き	インターネットホームページ	放送	官報・新聞等への掲載
経営委員会議事録	○	○		
理事会議事録	○	○		
平成24～26年度NHK経営計画	○	○		
平成21～23年度NHK経営計画	○	○		
番組審議会の議事概要（中央・地方・国際）	○	○	○	
番組基準（国内・国際）	○	○		
業務報告書および監査委員会の意見書	○	○	○ニュース等	
財務諸表 監査委員会の意見書 監査報告書	○	○	○ニュース等	○
決算の要約、概要		○		
連結財務諸表、監査報告書	○	○		
連結決算の要約、概要		○		
日本放送協会定款	○	○		
収支予算、事業計画及び資金計画	○	○	○ニュース等	○
収支予算、事業計画及び資金計画に関する説明資料	○	○		
経理規程	○	○		
役職員の服務準則	○	○		
役職員の報酬・給与等の支給基準	○	○		
国会でのNHK予算審議のまよう			○特別番組	
NHK放送ガイドライン2011	○	○		
放送番組編集の基本計画・放送番組編成計画（国内・国際）	○	○	○新年度番組紹介	
各地方向け地域放送番組編集計画	○	○		
インターネットサービス基本計画	○	○		
NHKの情報公開のあり方に関する提言	○	○		
NHK情報公開基準・NHK情報公開規程	○	○		
NHK個人情報保護方針・NHK個人情報保護規程	○	○		
報道・著述・学術研究分野に係る個人情報保護規程	○	○		
NHK情報公開・個人情報保護審議委員会規程	○	○		
NHK情報公開・個人情報保護対応マニュアル	○	○		
情報公開の実施状況・個人情報開示等の求めへの対応状況		○		
放送受信規約・放送受信料免除基準	○	○		○
業務委託基準・業務委託契約要領	○	○		
番組製作の委託取引に関する自主基準	○	○		
関連団体運営基準	○	○		
関連団体の業務運営状況調査の結果	○	○		
関連団体事業活動審査委員会の活動結果	○	○		
NHKと関連団体との取引	○	○		
関連団体事業活動審査委員会規程	○	○		
子会社・関連会社の役員一覧	○	○		
環境報告書	○	○		
NHKことしの仕事	○	○日本語・英語		

公表している情報	公表方法			
	文書の備え置き	インターネットホームページ	放送	官報・新聞等への掲載
デジタル時代のNHK懇談会報告書	○	○		
NHK“約束”評価報告書	○	○		
視聴者視点によるNHK評価報告書	○	○		
NHK第2次コンプライアンス委員会最終答申	○	○		
NHK視聴者ふれあい報告書	○	○		
視聴者対応報告		○		
視聴者の意見・要望の業務への反映事例		○		
お客さまの声・週刊トピックス		○		
NHKふれあいミーティング		○		
「NHK倫理・行動憲章」「行動指針」	○	○		
日本放送協会報	○			
放送番組表		○		
放送制度などに関するNHK意見		○		
世論調査結果、調査研究成果		○概要	○ニュース等	
会長・放送総局長会見要旨・資料		○		
報道発表資料		○		
随意契約の適正化	○	○		
NHK年鑑	○	○		
放送受信契約数統計要覧	○	○		
月刊「放送研究と調査」	○	○		
放送技術研究所「研究年報」	○	○		
隔月刊「NHK技研R&D」	○	○		

## 視聴者との対話

### 1. 視聴者との結び付き強化

#### (1) CS（視聴者満足）活動

13年度、全国のNHKに寄せられた視聴者からの意見や問い合わせは、合わせて393万6,000件だった。12年度に比べておよそ3万件減少した。このうち番組への反響は、全国でおよそ119万件余りだった。

「すべては視聴者のみなさまのために」を貫き経営方針の組織風土改革を成し遂げるために、視聴者からの問い合わせに迅速・丁寧に応えるとともに、意見・要望を経営資源としてきちんと受け止め、番組制作や事業活動に反映していかなければならない。

視聴者から信頼され、役に立てるNHKであり続けるためには、多様な要望に迅速に応え、満足してもらうことが重要であり、この活動の繰り返しが“CS（視聴者満足）向上”に向けての取り組みである。

#### (2) ふれあいセンター（放送）の取り組み

ふれあいセンター（放送）では、関係各部署と連携して、迅速・丁寧な対応を目指している。寄せられた視聴者の意見、要望はデータベース化し、経営や現場に速やかにフィードバックして番組編成や制作、業務運営に役立てている。

13年度にふれあいセンターで受け付けた視聴者からの意見・要望は、電話が75万601件、メールが14万5,269件で合計89万5,870件であった。

ふれあいセンターでは、コミュニケーター等による応対品質やスキルの向上を目指し、さまざまな研修を実施しているが、13年度は、朝の『連続テレビ小説』や国際放送などのプロデューサーから直接話を聞くことで、より丁寧な応対ができるような職場研修を実施した。

### 2. 視聴者意向の収集と活用

#### (1) 「NHKふれあいミーティング」の開催

NHKの役職員と視聴者が直接触れ合い、NHKを身近に感じてもらいながら意見交換を行う「ふれあいミーティング」は05年にスタートした。全国各地で実施する公開番組収録の会場や番組の上

映会、イベントの実施会場、会館見学と連動するなど、さまざまな形式で開催した。「ふれあいミーティング」は、視聴者との結び付き強化の中心的施策として、本部および全国各放送局で取り組んでいる。

## (2) 「NHKハートプラザ」の活動

本部・全国各放送局・支局には、視聴者に関われたNHKを目指して、番組や受信料などNHKに関する意見や問い合わせに直接担当者が対応する窓口として「NHKハートプラザ」を設置し、その機能強化を図っている。また、「ハートプラザ」は、経営計画や予算・決算書などを取りそろえ、NHKの情報公開の窓口としても機能している。13年度は、各放送局を巡回する「大河ドラマ巡回展」などを活用。全国の放送局では会館公開などを行い、ハートプラザの来場者は、合わせて286万6,000人を数えた。幼い子どもを連れた家族連れの姿も見られ、若い世代との結び付きにもつながっている。本部の「ハートプラザ」(放送センター4階・正面玄関横)は、6人のNHKサービスセンター職員・スタッフが、来局者や手紙(投書)・FAXでの、意見・問い合わせ、情報公開の窓口を担当している。また、グループ単位による事前申し込みを原則に、中学生・高校生による“訪問学習”を積極的に受け入れている。視聴者がNHKを訪れて直接触れ合う接点として、気軽に足を運ぶことができる場となっている。13年度は1万5,525人が窓口を訪れ、手紙(投書)が1万8,948通、FAXが1万6,479通寄せられた。

## (3) 13年度視聴者意向

### ①意向の件数と内容

電話、メール、手紙、FAX、来局、ふれあいミーティングなどで、全国の放送局に寄せられた13年度の意向件数は393万6,000件になった。

### 13年度視聴者意向件数(単位 千件)

(※関連団体への意向件数は含まず)

#### ※内容別内訳

内容 年度	経営 関係	放送 関係	受信料 関係	技術・ 受信相談	その他	合計
2013	28	1,365	2,071	118	354	3,936

#### ※受付方法別内訳

区分	電話	投書	来局	FAX	インターネット	その他	合計
件数	3,302	106	61	22	416	29	3,936
比率(%)	83.9	2.7	1.5	0.6	10.6	0.7	100

番組別では、『あさイチ』が4万4,500件で最も多く、次いで『NHKニュース おはよう日本』に3万4,200件、『ニュースウオッチ9』に2万6,000件、『ためしてガッテン』に2万5,300件の意見・問い合わせが寄せられた。

### ②意向の集約・周知

視聴者部では、ふれあいセンター(放送)や全国の各放送局に寄せられた意見・問い合わせなどを集約して、概要のほか主な番組への意見、受付形態別の件数などを掲載し、1日の視聴者の声の傾向をまとめた「日報」を発行している。

また、1週間ごとの傾向をまとめた「週刊視聴者の声」では、反響が多かった番組への主な意見内容、再放送を希望する理由の分類などを掲載し、番組編成に役立っている。1か月ごとの傾向をまとめた「月刊視聴者の声」は、番組審議会の資料としても利用されている。「日報」「週刊視聴者の声」「月刊視聴者の声」は「VOISシステム」に登録し、全職員が閲覧できるようにしている。

また、08年度4月の放送法改正で、視聴者からの苦情その他の意見に適切かつ迅速に対応し、その対応結果を経営委員会に報告することが義務づけられたことに伴い、ふれあいセンターや本部各部署、全国の放送局に寄せられた意見・苦情などを取りまとめて、3か月に1度「視聴者対応報告」を作成、理事会で審議決定し経営委員会に報告した。「視聴者対応報告」は、ホームページに掲載し視聴者も閲覧できるようにした。

### ③寄せられた視聴者の意見と業務への反映

視聴者から寄せられた意見・要望や、業務の改善事例などをまとめた「みなさまの声にお応えして～NHK視聴者ふれあい報告書2013」を、全国の放送局の協力を得て作成し5月に発行し、併せて「NHKオンライン」上でも公開した。

## 3. NHKネットクラブ

NHKネットクラブは、インターネット会員サービスとして「視聴者との双方向の回路の充実」「受信料支払者の満足度の向上」「インターネット自主申し出の拡大による営業経費の圧縮」を目的に、09年10月27日にスタートした。

13年度は、キッズ向け撮影イベントなどをスタジオパークで継続的に実施したり、語学番組のサイトと連動した「マイ語学」サービスを始めたことで大幅に会員数を増やし、13年度末には290万人を突破している。



## イベント事業

### I. 公開番組

#### (1) 地域で実施する全国放送公開番組

13年度は、459本の公開番組を全国各地で実施。総合テレビ83本、Eテレ23本、衛星放送42本、ラジオ・FM311本の公開番組を地方自治体などの協力を得ながら実施した。東日本大震災の被災地復興支援として、『歌謡チャリティーコンサート』（4月19日岩手県盛岡市）や『NHKのご自慢』（8月11日福島県南相馬市、13年3月9日青森県八戸市）、『ごきげん歌謡笑劇団』（11月5日福島県喜多方市、12月11日宮城県気仙沼市）などの公開番組を被災県で実施した。

また、NHK大阪ホールで20本、地域放送局スタジオなどで41本の公開番組を実施したほか、『歌謡チャリティーコンサート』（2本）などを有料で実施した。

#### (2) NHK内、都内外部施設で実施する公開番組

NHKホール、ふれあいホールなどのNHK施設、ニッショーホールなどの東京都内の外部施設で公開番組を実施した。

##### 【定時番組】

NHKホールで公開した定時テレビ番組は、『NHK歌謡コンサート』（38本）10万6,107人、『MUSIC JAPAN』（10本）2万6,912人、『ザ少年倶楽部』（12本）3万5,479人。

ふれあいホールで公開した定時テレビ番組は『オンバト+』（4本）1,434人、『みんなDEどもくん!』（23本）5,569人。定時ラジオ・FM番組は『セッション2013』（36本）8,552人、『ライブビート』（10本）1,897人。

##### 【主な特集番組】

『新・話の泉スペシャル』

4月15日 ふれあいホール 232人

『しゃべくり一直線』

4月22日 ふれあいホール 123人

『Live! エレうた!』

4月27日 ふれあいホール 154人

『ライブハウス・R-1』

4月29日 ふれあいホール 130人

『ラジオ深夜便～特集・深夜便のつどい～NHKホール40周年によせて』

6月16日 NHKホール 2,729人

『新・話の泉スペシャル』

7月8日 ふれあいホール 238人  
『渋谷アニメランド』

7月15日 ふれあいホール 216人  
『オンガクジェネレーション』

7月18日 NHKホール 2,277人  
『昭和歌謡ショー』

7月19日 ふれあいホール 164人  
『NHK東西浪曲大会』

7月26日 ニッショーホール 575人

8月31日 NHK大阪ホール 1,131人  
『第43回NHK講談大会』

7月27日 ニッショーホール 482人  
『なりきりバンド選手権!』

7月27日 ふれあいホール 134人  
『熱いぜ!しゃべくり一直線』

7月29日 ふれあいホール 147人  
『DJ日本史×グッとライブ コラボスペシャル』

8月1日 ふれあいホール 163人  
『スクールライブショー』

8月3日 ふれあいホール 130人  
『Live! エレうた!』

8月6日 ふれあいホール 143人  
『夏!民謡トーク&ライブ』

8月10日 ふれあいホール 242人  
『第45回 思い出のメロディー』

8月10日 NHKホール 2,607人  
『ライブハウス・R-1』

8月21日 ふれあいホール 167人  
『ラジプロ～ラジオをプロデュース』

8月31日 ふれあいホール 208人  
『スクールライブショー』

9月28日 ふれあいホール 272人  
『きらクラ!』

10月4日 ふれあいホール 215人  
『新・話の泉スペシャル』

12月9日 ふれあいホール 227人  
『新春民謡列島2014』

12月19日 ふれあいホール 235人  
『第64回NHK紅白歌合戦』

12月31日 NHKホール 2,726人  
『新春おめでた!しゃべくり一直線』

1月2日 ふれあいホール 238人  
『語りの劇場 グッとライブ』

1月13日 ふれあいホール 225人  
『ハートネットTV～介護百人一首2014「公開収録」』

2月1日 ふれあいホール 166人  
『第20回 家族で選ぶにっぽんの歌』

- 2月21日 NHKホール 2,752人  
 『NHKのど自慢チャンピオン大会2014』  
 3月1日 NHKホール 2,866人  
 『第43回日本農業賞 表彰式・日本農業賞記念コンサート』  
 3月8日 NHKホール 2,470人  
 『震災から3年“明日へ”コンサート』  
 3月10日 NHKホール 2,798人  
 『Live! エレうた!』  
 3月10日 ふれあいホール 211人  
 『ライブハウス・R-1』  
 3月19日 ふれあいホール 132人

## II. 公共放送ならではのイベント・キャンペーン

### 1. NHKハートプロジェクト

すべての人が共に生きる社会を目指し、NHKの福祉番組やイベントを取りまとめた福祉キャンペーン「NHKハートプロジェクト」を05年度から展開し、公共放送だからこそ可能な福祉への取り組みを総合的にアピールしている。

#### (1) NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい

12月1日から25日まで中央共同募金会（歳末たすけあい）、日本赤十字社（海外たすけあい）、NHK厚生文化事業団とともに実施した。受付は、全国のNHK各放送局、郵便局、取り扱い標示のある金融機関、JA、JF（漁協）、共同募金会、日本赤十字社など。

歳末たすけあいは、5万192件、6億2,075万5,821円で、各都道府県共同募金会を通じて国内の福祉施設や支援を必要とする人々に配分される。海外たすけあいは、7万5,821件、5億7,295万7,357円で、日本赤十字社を通じて世界各地の紛争や自然災害などに苦しむ人々のために使われる。また、たすけあいのPRイベントとして、12月1日にベルサール秋葉原で「あなたのやさしさを2013」を実施した。

#### (2) 災害たすけあい

国内外で発生した非常災害に応じて日本赤十字社などと連携し、災害たすけあいを実施した。

##### ①「東日本大震災義援金」

11年3月14日から日本赤十字社、中央共同募金会、NHK、NHK厚生文化事業団の主催で行ってきた義援金の募集・受け付けを、14年3月31日をもって終了。期間中に寄せられた義援金は、

3,731億2,080万円。

##### ②その他の災害たすけあい

「平成25年夏島根県西部大雨災害義援金」（13年8月2日～9月30日）、「山口県平成25年7月28日大雨災害義援金」（13年8月7日～9月30日）、「秋田県大雨災害義援金」（13年8月14日～9月30日）、「平成25年9月京都府台風18号災害義援金」（13年9月24日～11月29日）、「平成25年滋賀県台風18号災害義援金」（13年9月30日～11月29日）。

#### (3) 第18回NHKハート展

障害のある人が日常の生活の中で感じたことをつづった「詩」と、各界で活躍中のアーティスト・著名人がその詩のイメージをハートをモチーフに表現した「アート」とを組み合わせた展覧会で、94年から開催している。第18回は5,309編の詩の応募があった。展覧会は全国11会場で実施した。入場者数5万1,709人。

#### (4) NHKハートフォーラム

福祉番組の公開放送やさまざまなテーマのフォーラムを以下の6つのジャンルに分けて全国で26回実施した。入場者8,395人。

主催：開催地のNHK放送局、NHK厚生文化事業団、開催地の自治体ほか。

##### ①「ハートネットTV・公開すこやか長寿」（Eテレの公開番組）

6回実施 入場者2,212人

##### ②「高齢者福祉」

3回実施 入場者657人

##### ③「認知症」

4回実施 入場者1,162人

##### ④「障害福祉」

5回実施 入場者1,580人

##### ⑤「発達障害」

7回実施 入場者2,543人

##### ⑥「震災関連」

1回実施 入場者241人

#### (5) NHKハートスポーツフェスタ

障害のある人もない人もスポーツを通して交流を深めることで、“心のバリアフリー”を目指し、01年から実施している。

13年は東京都、愛媛県、大阪府の3か所で、車いすバスケットボールやブラインドサッカーなどの競技を実施した。参加者1,050人。

主催：NHK、NHK厚生文化事業団

共催：公益財団法人日本障害者スポーツ協会

#### (6) NHK介護百人一首

毎年、介護に関わる人々が日々の生活の中で詠

んだ短歌を全国から公募し、「NHK介護百人一首」として100首を選定している。13年度は1万1,606首の短歌が幅広い世代から寄せられた。

- ・Eテレの『ハートネットTV』で「介護百人一首」の公開収録をNHKふれあいホールで実施した。入場者166人。
- ・100首の短歌を収めた作品集を発行。
- ・介護百人一首パネル展を各局ロビー等、12会場で開催した。来場者1万1,086人。

### (7) 第48回NHK障害福祉賞

障害のある人や障害のある人を支援する人たちの体験手記を募集し、優秀作品を表彰した。13年度は410編の応募があった。

### (8) NHK銀の雫文芸賞2013

「高齢社会をどう生きるか」をテーマにした文芸作品を募集し優秀作品を表彰した。08年度からNHKが主催に加わり、NHK厚生文化事業団とともに実施した。応募数は672編。

### (9) 第47回NHK福祉大相撲

人気力士と歌手の歌くらべや横綱網締め実演、幕内取組などを楽しんでもらうイベントを14年2月11日に国技館で実施した。入場者数4,284人。純益で福祉車両「福祉相撲号」を購入し、全国の福祉施設・団体に計6台を贈呈した。13年度までの贈呈台数は延べ285台。

## 2. 公共放送キャンペーン

### (1) NHK防災キャンペーン

公共放送の使命として、“いざという時のNHK”という意識の浸透を図るとともに、視聴者の防災意識を高めるため、07年度からスタートしたキャンペーン。13年度は、首都直下地震や風水害など「首都圏」で起こりうる災害に対して、日常生活の中でどのように備えればよいかを考える機会とした。

#### ①防災パーク2013

9月1日の「防災の日」に合わせて、13年8月24～25日にNHK放送センターで開催。Eテレ『学ぼうBOSAIスペシャル』公開収録や、消防・警察の特殊車両の展示や乗車体験、防災をテーマにした各種体験（ワークショップ）などを実施した。来場者数は1万4,005人。

#### ②地域イベント

地域の課題を踏まえたテーマを取り入れ、防災・減災に関するイベントを実施した。全国14会場で開催。参加者2万6,901人。

### (2) NHK環境キャンペーン 地球エコイベント

人類共通の課題ともいえる環境をテーマに「NHK環境キャンペーン 地球エコイベント」を全国で展開した。

#### ①NHKエコ・パーク2013

13年6月1～2日にNHK放送センターで開催し、2万119人の参加があった。「“あした”をつくろう-ECO Action for the Future-」をテーマに、環境に関連した番組のステージやワークショップ、大学生・NPO団体と連携した参加・体験型のブースを展開した。また、海洋環境や生物多様性の保全にも着目したほか、会場には流木で作ったシンボルツリーを設置した。

#### ②地域イベント

エネルギー問題や自然環境、生物多様性の保全など、地域特有の課題に即したイベントを全国35会場で開催した。参加者23万6,972人。

### (3) ふるさとの食 につぼんの食

01年度より「日本の食文化の伝承」「地産地消」「食育」をテーマに全国で展開しているキャンペーン「ふるさとの食 につぼんの食」。JAやJF（漁協）などと実行委員会を組織し、全国的に推進している。

#### ①全国フェスティバル

14年3月8～9日にNHK放送センターと代々木公園で開催。来場者4万8,093人。

#### ②地域イベント

全国41会場で開催。参加者54万4,988人。

#### ③食料フォーラム

東京都（9月）、広島県（2月）の2会場で開催。入場者1,254人。

## Ⅲ. こども・青少年イベント

### (1) 『大!天才てれびくん』公開収録

入場者1,495人。（2回公演）

### (2) おかあさんといっしょファミリーコンサート

#### ①東京公演

春：5月2～5日、秋：11月1～4日、NHKホールで実施した。チャリティーの収益金は社会福祉の向上に役立てた。

主催：NHK、NHKサービスセンター、NHKプロモーション、NHK厚生文化事業団

出演：横山だいすけ、三谷たくみ、小林よしひさ、上原りさ、ほか。

入場者：（春・8公演）2万5,471人

(秋・8公演) 2万5,375人

## ②地方公演

全国11会場(28公演)で実施した。チャリティーの収益金は、さまざまな社会福祉活動に役立てた。入場者3万8,755人。

### (3) いないないばあっ! あつまれ! ワンワンわんだーらんど

『いないないばあっ!』の人気キャラクター・ワンワンほか出演者たちが歌や踊りを繰り広げる番組連動型のステージショー。全国10会場(24公演)で実施した。チャリティーの収益金は、社会福祉向上に役立てた。入場者3万3,360人。

### (4) おかあさんといっしょ 宅配便「ポコポットイト小劇場」

『おかあさんといっしょ』のキャラクター「ポコポットイト」が全国を巡回するミニステージショーを61会場(122公演)で実施した。入場者5万9,011人。

### (5) 『おかあさんといっしょ あつまれ! 土曜日』スタジオ収録

『おかあさんといっしょ』の土曜日放送分の中で、子どもが参加するコーナーの収録を実施した。全国の子どもたちに番組出演の機会を提供し、視聴者サービスの充実を図った。7会場収録し、計21本を制作。参加者595組1,197人(3歳児とその保護者)。

出演:小林よしひさ、上原りさ

### (6) NHK放送体験クラブ

小学校5・6年生を対象に全国各放送局で番組作りの体験を通し、楽しみながら放送のことを学習するイベントとして実施した。全国53放送局と5支局で実施。参加した児童の様子や制作した作品は地域放送で紹介し、視聴者サービスに努めた。参加789校4万3,156人。

### (7) 「第80回NHK全国学校音楽コンクール」

都府県(北海道は地区)、ブロックの各コンクールを経て選ばれた小学校・中学校・高等学校の代表各11校(組)が、10月12~14日にNHKホールで行った全国コンクールに出場した。課題曲のテーマは「スタート!」。80回の記念大会として「いっしょに歌おうプロジェクト」を展開、動画募集などを行った。金賞:日野市立七生緑小学校(初受賞)、豊島岡女子学園中学校(初受賞)、千葉県立幕張総合高等学校(2年連続2回目)。

全参加校数:小学校の部965校、中学校の部1,199校、高等学校の部447校、計2,611校。

### (8) 第30回NHK杯全国中学校放送コンテスト

各都府県(北海道は地区)大会は5~7月に実

施、全国大会決勝は8月20日、ふれあいホールで実施した。部門は、アナウンス・朗読・ラジオ番組・テレビ番組の4部門。参加校は全国で649校。各部門の参加数:アナウンス1,058人、朗読1,623人、ラジオ番組140作品、テレビ番組114作品。30回の記念大会として、会場を初めてふれあいホールでの実施としたほか、復興支援ソング「花は咲く」のミュージックビデオ作品募集も行った。

### (9) 第60回NHK杯全国高校放送コンテスト

5~6月に各都道府県大会、7月23~24日に国立オリンピック記念青少年センター、25日にNHKホールで全国大会を実施した。部門は、アナウンス・朗読・ラジオドキュメント・テレビドキュメント・創作ラジオドラマ・創作テレビドラマの6部門。60回の記念大会として、「校内放送自慢」の募集および中学校同様に復興支援ソング「花は咲く」のミュージックビデオ作品募集を行った。参加校は全国で1,662校。参加生徒数延べ1万6,440人。

### (10) アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2013

全国の高等専門学校57校(62キャンパス)から124チームが参加、競技課題に従い、自らのアイデアを駆使して想像力と技術力を競った。8地区からの選抜25チームが11月24日の全国大会(会場:国技館)に出場。地区大会からの延べ参加者1万3,868人。

### (11) NHK大学ロボコン2013~ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会~

事前審査を通過した国内21大学のチームが6月9日の大会(会場:国立オリンピック記念青少年総合センター)に出場した。参加者1,379人。優勝チームは、8月18日にベトナム・ダナンで開催されたABUアジア・太平洋ロボットコンテストに出場した。

### (12) 渋谷DEどーも2013

「BS番組のPR」「震災復興支援」などを柱に、ファミリー層をメインターゲットとした内容のイベントを5月3~5日にNHK放送センターで実施した。参加者6万9,185人。

### (13) NHK@秋葉原2013~「NHKアニメ館」 「あなたのやさしさを」~

サブカルチャーやアニメの聖地として若者が集まる秋葉原のバルサル秋葉原で、NHKのアニメをPRするイベントを11月30日~12月1日に行った。NHK歳末・海外たすけあいを紹介する「あなたのやさしさを2013」と連動して実施し、若い世代との接触を図った。参加者1万8,500人。



**(14) NHK@秋葉原「NHK WONDERLAND 2013」**

サブカルチャーの聖地として若者でにぎわう秋葉原のベルサール秋葉原で、8月10～11日、番組収録や展示イベントなどを実施した。来場者2万6,113人。

**(15) NHK 紅白 WONDERLAND@横浜赤レンガ倉庫**

『第64回NHK紅白歌合戦』に合わせて、12月28～31日に横浜赤レンガ倉庫で、8Kスーパーハイビジョンおよびハイビジョンによるライブビューイングなどを実施した。来場者5万3,149人。

**(16) NHKサイエンススタジアム2013**

日本科学未来館で9月28～29日に、科学系番組の公開収録・展示・ワークショップ・ミニステージなどを実施した。来場者2万7,700人。

**IV. 教育・教養イベント****(1) NHK文化祭2013**

10月17～24日、NHK放送センターを中心に、教育番組の国際コンクール「日本賞」を実施。公開イベント「NHK文化祭たいけん広場」(11月2～4日)では、「おどろく、つながる、元気の“わっ”」をテーマに、Eテレの番組をベースにした親子で楽しめるステージのほか、ワークショップ、会場内からの公開生放送やラジオ番組の公開録音等を実施した。「ふるさとの食 につぼんの食・東京フェスティバル」とも連動。来場者5万6,424人。

**(2) 放送教育関連イベント****①第64回放送教育研究会全国大会(北海道大会)**

10月25～26日に北海道旭川市各会場で、NHKの学校放送番組やデジタル教材を活用した公開授

業や実践事例の発表、番組制作者・研究者も交えた討議などを行い、放送教育の研究と交流を深める場となった。第17回視聴覚教育総合全国大会と合同で開催した。参加者1,164人。

**②放送教育研究会地方大会**

各地方放送教育研究会などと共催し、全国7ブロックで地方大会を開催した。参加者3,889人。(表2)

**③先生のためのデジタルテレビ・ICT活用講座**

放送教育実践者による模擬授業やメディア教育研究者のワークショップを通じて、学校放送番組やデジタル教材の活用を支援する。全国10会場で開催した。参加者460人。

**(3) 平成25年度「NHK全国短歌・俳句大会」**

1月18日(短歌)、19日(俳句)、NHKホールで実施した。NHK学園共催。応募は短歌4万3,026首、俳句8万4,153句。参加者は短歌1,440人、俳句2,160人。

**(4) NHK公開セミナー**

『大河ドラマ』『八重の桜』『軍師官兵衛』、『コズミック フロント』『につぼん百名山』を題材に、NHK文化センター、地方自治体等と共催、全国18会場で実施した。参加者5,126人。

**(5) 子育て世代向けイベント「Let's tryプレキソ英語in ○○」**

Eテレ『プレキソ英語』の番組キャラクターCowdoji(カウドージ・茂山童司)出演によるイベントを全国5会場で開催。参加した小学生とその保護者が番組出演者と直接触れ合い、英語を通じたコミュニケーションを体験することで番組の視聴につなげた。参加者1,620人。

**(6) 学校へ出向き実施するイベント**

出演者が直接小・中学校へ出向いてNHKとの接触の機会を作り、公共放送への理解を深めても

表2 2013年度「放送教育研究会地方大会」

ブロック	タイトル	日程	開催地	全体会場	参加者数
北海道	第65回北海道放送教育研究会 道北・旭川大会 ※第64回放送教育研究全国大会として実施。	10月25日(金)～26日(土)	北海道旭川市	旭川大雪クリスタルホール	1,164人
東北	第54回放送教育東北大会山形大会	11月13日(水)	山形県寒河江市	寒河江市文化センター	155人
関東甲信越	平成25年度関東甲信越放送・視聴覚教育研究会埼玉大会	11月8日(金)	埼玉県飯能市	飯能市民会館	1,140人
東海・北陸	第51回東海北陸地方放送教育研究会大会 第45回愛知県放送教育特別研究会	8月22日(木)	愛知県名古屋	ウインクあいち	315人
近畿	第62回近畿放送教育研究会兵庫大会 第63回近畿学校視聴覚教育研究会兵庫大会	11月22日(金)	奈良県葛城市	葛城市新庄文化会館	374人
中国	第50回中国地方放送教育研究会鳥根(松江)大会	8月8日(木)	鳥根県松江市	サンラポーむらくも	199人
四国	※隔年開催のため実施なし				—
九州	第62回九州地方放送教育研究会佐賀大会	11月1日(金)	佐賀県有田町	歴史と文化の森公園(森の博記念堂)	542人
				7会場計	3,889人

らった。

### ①NHK子ども音楽クラブ～N響が〇〇小学校 (中学校)にやってきた～

NHK交響楽団のメンバーが小・中学校に出向いて児童・生徒との交流を交えながら演奏を行うミニコンサート。13年度は全国の小・中学校9会場(うち、被災地3会場)で開催した。クラシックの名曲を演奏。参加者2,631人。

### ②NHK朗読ひろば at 〇〇小学校～アナウンサーが広げることばの世界～

NHKアナウンサーが小学校に出向く朗読イベント。アナウンサーが映像や音による演出を加え、教科書や絵本から作品を朗読した。全国4会場で実施し、参加者949人。

## V. 美術・展博イベント

### (1)「柳宗悦展－暮らしへの眼差し－」

無名の職人たちの手によって生み出された日用の雑器に美を見いだし、独自の審美眼により民芸運動を展開した柳宗悦。彼の仕事と人物像を日本民藝館の所蔵品約380点を通して紹介した。

主催：開催地美術館・博物館、日本民藝館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国7会場(東京、神奈川、大阪、鳥取、広島、長野、滋賀)。会期：11年9月15日～13年11月24日。入場者13万241人。

### (2) 特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」

“東洋美術の殿堂”と称されるアメリカ・ボストン美術館の日本美術コレクションから、その粋92点を展示した。

主催：開催地博物館、ボストン美術館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国4会場(東京、愛知、福岡、大阪)。会期：12年3月20日～13年6月16日。入場者128万4,824人。

### (3) 特別展「中国 王朝の至宝」

日中国交正常化40周年を記念して、夏から宋の時代にわたる中国歴代の王朝の都・中心地域に焦点を当て、それぞれの地域の特徴が凝縮された代表的な文物およそ170件を展示した。

主催：開催地博物館、中国文物交流中心、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国4会場(東京、兵庫、愛知、福岡)。会期：12年10月10日～13年9月16日。入場者36万3,435人。

### (4) エル・グレコ展

没後400年を迎えるスペイン絵画の巨匠エル・

グレコの、国内では26年ぶりとなる大回顧展。油彩およびテンペラ画51点を展示した。

主催：開催地美術館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社、朝日新聞社。有料。全国2会場(大阪、東京)。会期：12年10月16日～13年4月7日。入場者47万6,972人。

### (5) 尊厳の芸術展-The Art of Gaman-

太平洋戦争中アメリカ国内で強制収容された日系アメリカ人が収容所内で制作した日用品や美術工芸品99件を紹介した。

主催：開催館、開催地NHK放送局ほか。無料。全国5会場(東京、福島、宮城、沖縄、広島)。会期：12年11月3日～13年9月1日。入場者10万6,088人。

### (6) 特別展「飛騨の円空－千光寺とその周辺の足跡－」

江戸時代の仏師・円空が岐阜県高山市に残した仏像約100体を展示した。

主催：東京国立博物館、千光寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション。有料。東京国立博物館。会期：13年1月12日～4月7日。入場者19万122人。

### (7) NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」

主人公の新島八重をはじめ、兄の山本覚馬や夫の新島襄ゆかりの歴史資料や同時代の資料約210点を展示。

主催：開催地博物館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国3会場(東京、福島、京都)。会期：13年3月12日～9月1日。入場者15万6,592人。

### (8)「国宝 大神社展」

日本各地の神社に古くから伝わる神宝や神像など、神道美術の粋244件を展示した。

主催：開催地博物館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国2会場(東京、福岡)。会期：13年4月9日～14年3月9日。入場者28万3,551人。

### (9) フランス国立クリュニー中世美術館所蔵「貴婦人と一角獣展」

中世ヨーロッパ美術の最高傑作の一つ、連作タピスリー《貴婦人と一角獣》6面を日本で初めて一挙に公開した。

主催：開催地美術館、フランス国立クリュニー中世美術館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国2会場(東京、大阪)。会期：13年4月24日～13年10月20日。入場者33万1,789人。

**(10) 「夏目漱石の美術世界展」**

夏目漱石の文学作品ゆかりの、ターナーやミレイ、伊藤若冲などの絵画作品に加え、漱石自身が描いた南画山水など約200点を展示した。

主催：東京藝術大学、東京新聞、NHK、NHKプロモーション。有料。東京藝術大学大学美術館。会期：13年5月14日～7月7日。入場者7万5,218人。

**(11) 「生誕100年 佐藤太清展」**

花鳥風景画という新分野を確立し、文化勲章を受章するなど、戦後の日本画壇を支えてきた日本画家・佐藤太清。太清の代名詞ともいべき“旅シリーズ”など約70点を展示した。

主催：開催地美術・博物館、生誕100年佐藤太清展実行委員会、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国6会場（富山、東京、京都、茨城、岡山、福知山）。会期：13年6月21日～14年8月3日。入場者5万6,444人。

**(12) 特別展「手塚治虫×石ノ森章太郎 マンガのちから」**

“マンガの神様”手塚治虫と“マンガの王様”石ノ森章太郎の二人の歩み、作品に込められたメッセージを振り返りながら日本の戦後マンガ史を概観。

主催：開催地美術・博物館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国6会場（東京、広島、大阪、山梨、宮城、長野）。会期：13年6月29日～14年12月7日。入場者11万3,157人（東京、広島、大阪、山梨、宮城）。

**(13) 「大妖怪展－鬼と妖怪そしてゲゲゲー」**

日本の中世から近代までの妖怪変化の歴史を、能面・絵巻・浮世絵・版本など、重要文化財16点を含む111点で展示。

主催：三井記念美術館、NHK、NHKプロモーション。有料。三井記念美術館。会期：13年7月6日～9月1日。入場者5万993人。

**(14) 特別展「深海－挑戦の歩みと驚異の生きものたち－」**

全長5メートルのダイオウイカの標本や有人潜水調査船「しんかい6500」の実物大模型など、深海の謎を解き明かす展示物、約600点を展示。

主催：国立科学博物館、海洋研究開発機構、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション。有料。国立科学博物館。会期：13年7月6日～10月6日。入場者59万3,129人。

**(15) 特別展「和様の書」**

仮名と漢字の調和により日本の文化の中で独自に発展していった日本風の書“和様の書”をテ-

マに、国宝・重要文化財87点を含む計156点を展示。

主催：東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション。有料。東京国立博物館。会期：13年7月13日～9月8日。入場者10万4,577人。

**(16) 「ルーヴル美術館展－地中海 四千年のものがたり－」**

ルーヴル美術館の全8美術部門が、総力を挙げ、西洋と東洋を結ぶ地中海世界の四千年に及ぶ歴史的・空間的な広がり、273点の収蔵品で展観した。

主催：東京都美術館、ルーヴル美術館、日本経済新聞社、NHK、NHKプロモーション。有料。東京都美術館。会期：13年7月20日～9月23日。入場者29万1,531人。

**(17) 「竹内栖鳳展 近代日本画の巨人」**

近代日本画史に偉大な足跡を残した竹内栖鳳の過去最大規模の回顧展。代表作の重要文化財「斑猫」など作品約100点、素描などの資料約60点を展示。

主催：開催地美術館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国2会場（東京、京都）。会期：13年9月3日～12月1日。入場者22万5,415人。

**(18) 「モローとルオー－聖なるものの継承と変容」**

象徴主義の巨匠ギュスターヴ・モローと20世紀最大の宗教画家といわれるジョルジュ・ルオー、師弟関係で結ばれていた両名の世界で初めての二人展。

主催：開催地美術館、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国2会場（東京、長野）。会期：13年9月7日～14年3月23日。入場者5万757人。

**(19) 「印象派を超えて－一点描の画家たち」**

世界最大のゴッホコレクションで知られるオランダのクレラー＝ミュラー美術館の全面協力のもと、ゴッホ、スーラ、モンドリアンらの油彩、水彩、素描など約90点を展示。

主催：開催地美術館、東京新聞、開催地NHK放送局、NHK地域関連会社ほか。有料。全国3会場（東京、広島、名古屋）。会期：13年10月4日～14年4月6日。入場者28万2,911人。

**(20) 日本美術の祭典「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」**

クリーブランド美術館の日本美術コレクションより、平安から明治に至る、選りすぐりの日本絵画42件に中国と西洋絵画を加えた51件を紹介。

主催：東京国立博物館、クリーブランド美術館、

NHK, NHKプロモーション, 朝日新聞社。有料。東京国立博物館。会期:14年1月15日~2月23日。入場者10万4,865人。

### (21) 日本美術の祭典「日本伝統工芸展60回記念 人間国宝展一生み出された美、伝えゆくわざー」

日本伝統工芸展の60回を記念し、物故された歴代人間国宝104人が残した陶芸・染織・漆芸などさまざまな分野の名品を一堂で紹介。

主催:東京国立博物館, 文化庁, NHK, NHKプロモーション, 朝日新聞社, 日本工芸会。有料。東京国立博物館。会期:14年1月15日~2月23日。入場者11万2,960人。

### (22) 日本美術の祭典「日本美術院再興100年特別展 世紀の日本画」

横山大観や狩野芳崖をはじめとした近代日本画の巨匠の代表作に現役同人の作品を加え、重要文化財6点を含むおよそ120点を紹介。

主催:東京都美術館, 日本美術院, NHK, NHKプロモーション, 朝日新聞社。有料。東京都美術館。会期:14年1月25日~4月1日。入場者17万7,955人。

### (23)「第15回 国際バラとガーデニングショウ」

メインテーマを「恋するバラの15年」とし、15年間の思い出の詰まった「ロングロングアベニュー」など多彩な企画を展開した。

主催:国際バラとガーデニングショウ組織委員会(毎日新聞社, NHK, スポーツニッポン新聞社)。有料。西武ドーム。会期:13年5月11~16日。入場者22万1,967人。

### (24)「第60回日本伝統工芸展」

優れた日本の伝統工芸を現代に継承しつつ、今日の生活に即した新しい作品を築き上げることを目的に毎年開催している。

主催:社団法人日本工芸会, 開催地NHK放送局, 朝日新聞社, 文化庁(東京展のみ), 開催地教育委員会など。一部有料。全国12会場(東京, 愛知, 京都, 大阪, 石川, 岡山, 島根, 香川, 宮城, 福岡, 愛媛, 広島)。会期:12年9月18日~14年3月16日。入場者26万2,930人。

### (25)「第13回東京国際キルトフェスティバルー布と針と糸の祭典ー」

特集企画「斉藤謠子 キルトでつむぐムーミン物語」は、ムーミンの作者トーベ・ヤンソン生誕100年を記念して原画を50点のキルト作品にして展示した。

主催:東京国際キルトフェスティバル実行委員会(NHK, 読売新聞社, 東京国際キルトフェス

ティバル組織委員会)。有料。東京ドーム。会期:14年1月23~29日。入場者23万7,078人。

### (26)「世界らん展日本大賞2014」

「都会の真中の楽園」をテーマに、世界20の国・地域からおおよそ3,000種・10万株の蘭が出展された。

主催:世界らん展日本大賞実行委員会(読売新聞社, NHK, 世界らん展組織委員会)。有料。東京ドーム。会期:14年2月15~23日。入場者13万9,764人。

## VI. 音楽・伝統芸能イベント

### (1) NHK音楽祭2013

11年目を迎えた「NHK音楽祭」。13年は「輝くオペラの巨星たち」をテーマに実施した。以下、すべてNHKホール。有料公演。

①9月16日, ミラノ・スカラ座管弦楽団 ~ヴェルディ ガラ・コンサート~

指揮:グスターボ・ドゥダメル, 曲目:ヴェルディ/歌劇「アイダ」から「清きアイダ」ほか。入場者2,693人。

②9月19日, ミラノ・スカラ座管弦楽団 ~歌劇「アイダ」全4幕・演奏会形式~イタリア語上演・日本語字幕付

指揮:グスターボ・ドゥダメル, 合唱:ミラノ・スカラ座合唱団, 曲目:ヴェルディ/歌劇「アイダ」全4幕(演奏会形式) イタリア語上演・日本語字幕付。入場者2,283人。

③10月2日, NHK交響楽団~ワーグナー ガラ・コンサート~

指揮:フィリップ・オーギャン, 曲目:ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」から「前奏曲と愛の死」ほか。入場者2,442人。

④10月5日, フランス放送フィルハーモニー管弦楽団~ビゼー「カルメン」特集~

指揮:チョン・ミョンフン, ソリスト:藤村実穂子(メゾ・ソプラノ), 曲目:ビゼー/「カルメン組曲」ほか。入場者2,414人。

### (2) 第40回NHK古典芸能鑑賞会

10月29日, NHKホール。有料公演。

①箏曲「松竹梅」

唄・箏:米川文子, 山勢松韻, 唄と三絃:富山清琴, 尺八:山本邦山ほか。

②狂言「萩大名」和泉流

野村萬, 野村太一郎, 野村万禄ほか。

③京舞「お七」文楽座出演

舞:井上八千代, 浄瑠璃:豊竹英大夫, 三味線:



鶴澤燕三、竹澤宗助ほか。

④歌舞伎「双蝶々曲輪日記 引窓」一幕

中村梅玉、片岡我當ほか。

入場者1,216人。

**(3) NHK交響楽団演奏会地方公演**

東北公演（山形）／7月2日山形市，指揮：小林研一郎，ピアノ：小山実稚恵，曲目：ベートーベン／ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58，ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14。入場者993人。有料公演。

大阪公演／9月14日大阪市，NHK大阪ホール，指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット，曲目：ブラームス／交響曲第1番ハ短調作品68ほか。入場者1,187人。有料公演。

中国公演／14年2月26日広島市，2月27日下関市，3月3日岡山市，3月4日松江市，指揮：ユライ・ヴァルチュハ，バイオリン：諏訪内晶子，曲目：ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲，サンサーンス／バイオリン協奏曲 第3番 ロ短調 作品61，チャイコフスキー／交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」。入場者6,400人（4会場）。有料公演。

東北公演／14年3月15日福島市，3月16日盛岡市，3月17日仙台市，指揮：ラルフ・ワイケルト，ピアノ：パスカル・ロジェ，曲目：モーツァルト／ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467，ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68。入場者4,562人（3会場）。有料公演。

**(4) 第82回日本音楽コンクール**

毎日新聞社と共催。各部門予選・本選を経て入賞者を決定。本選会は10月26～31日，東京オペラシティコンサートホール。入場者3,779人（本選会）。本選各部門の第1位は次のとおり。ピアノ部門：石井楓子（桐朋学園大学4年），バイオリン部門：大江馨（桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース2年），声楽部門：竹多倫子（東京芸術大学大学院修了），オーボエ部門：吉村結実（東京音楽大学修了），フルート部門：松木さや（東京芸術大学大学院），作曲部門：網守将平（東京芸術大学大学院）。

**(5) 第57回NHKニューイヤーオペラコンサート**

1月3日，NHKホール。有料公演。

ソプラノ：安藤赴美子，大村博美，木下美穂子，幸田浩子，腰越満美，佐々木典子，砂川涼子，中村恵理，森麻季，メゾ・ソプラノ：谷口睦美，林美智子，藤村実穂子，山下牧子，カウンターテナー：藤木大地，テノール：小原啓楼，錦織健，福井敬，村上敏明，与儀巧，バリトン：久保和範，

堀内康雄，バス：妻屋秀和，合唱：新国立劇場合唱団，二期会合唱団，藤原歌劇団合唱部，管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団，指揮：下野竜也，特別ゲスト：ウィーン・リング・アンサンブル，トークゲスト：假屋崎省吾，ライナー・キューヒル，宮本亜門，司会：鎌倉千秋アナウンサー。入場者3,100人。

**(6) NHKバレエの饗宴2014**

日本を代表するバレエ団とバレエダンサーが一堂に会する公演。3月29日，NHKホール。有料公演。①演目：スコッチ・シンフォニー，出演：スターダンサーズ・バレエ団（林ゆりえ，吉瀬智弘ほか），振付：ジョージ・バランシン，音楽：メンデルスゾーン，演出・振付指導：ベン・ヒューズ，②演目：「3月のトリオ」，出演：島地保武，酒井はな ユニット〈アルトノイ〉，振付：島地保武，酒井はな，音楽：バッハ，チェロ：古川展生，③演目：The Well-Tempered，出演：首藤康之，中村恩恵，振付：中村恩恵，音楽：バッハ，ピアノ：若林顕，④演目：「ドン・キホーテ」第1幕から，出演：貞松・浜田バレエ団（瀬島五月，アンドリュー・エルフィンストーンほか），原振付：マリウス・プティパ，アレクサンドル・ゴルスキー，再演出・指導：ニコライ・フョードロフ，新演出・振付：貞松正一郎，音楽：ミンクス，⑤演目：「ラ・シルフィード」から パ・ド・ドウ，出演：吉田都，フィリップ・バランキエヴィッチ，振付：オーギュスト・ブルノンヴィル，音楽：レーヴェンスヨルド，⑥演目：ベートーベン 交響曲第7番，出演：東京シティ・バレエ団（志賀育恵，佐合萌香，キム・セジョンほか），振付：ウヴェ・ショルツ，音楽：ベートーベン，指揮：大井剛史，管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団。入場者2,875人。

**(7) 第12回 東京JAZZ**

9月6～8日，東京国際フォーラムほか。有料公演。出演：トニー・ベネット，ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブfeaturing オマール・ポルトゥオンド，ボブ・ジェームス&デヴィッド・サンボーンfeaturing スティーヴ・ガッド&ジェームス・ジーナス，マット・ダスク with special guest 八代亜紀，大江千里 Saturday Night Orchestra，ai kuwabara trio project，チック・コリア & The Vigil with ティム・ガーランド，カリートス・デル・プエルト，マーカス・ギルモア，チャールズ・アルトゥラほか。入場者3万4,711人。

## Ⅶ. スポーツイベント

### (1) ラジオ体操・みんなの体操会

かんば生命保険、全国ラジオ体操連盟との共催。

#### ①夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会

7月20日～8月31日、全国43会場で実施し、ラジオ第1で生放送した。このうち、7月28日は秋田市で「1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」として実施した。参加者7万5,398人。

#### ②特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会

4月28日、5月19日、6月2、30日、9月8、22、29日、10月6、14日、全国9会場で実施し、ラジオ第1で生放送した。参加者1万2,659人。

### (2) 2013NHK杯国際フィギュアスケート競技大会 (第35回大会)

日本スケート連盟主催、NHK共催により11月8～10日、国立代々木競技場第一体育館（東京都渋谷区）で実施した。男子シングルは高橋大輔（日本）、女子シングルは浅田真央（日本）が優勝。参加選手は9か国・50人。入場者2万7,598人。

関連イベントとして、ソチ五輪放送テーマソングライブや、復興支援ソング「花は咲く」の英語版に合わせた「「花は咲く」スケーティング」「8Kスーパーハイビジョンライブビューイング」などを実施した。

### (3) 天皇盃 第19回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

日本陸上競技連盟の主催、中国新聞、NHKの共催で14年1月19日に実施した。平和記念公園前をスタート・フィニッシュとする7区間48kmコース。長野県チームが5年ぶり6回目の優勝。観覧者数30万人。広島平和記念公園に設置した大型モニターで中継映像を公開した。NHK広島放送センタービルでは「駅伝ふるさとひろば」を6日間実施した。来場者4万923人。

### (4) 皇后盃 第32回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

日本陸上競技連盟の主催、京都新聞、NHKの共催で14年1月12日に実施した。京都市西京極総合運動公園陸上競技場をスタート・フィニッシュとする9区間42.195kmコース。地元・京都府チームが優勝。観覧者数32万人。競技場に設置した大型モニターで中継映像を公開したほか、少女ミニ駅伝などを実施した。

### (5) 第69回びわ湖毎日マラソン大会

日本陸上競技連盟、毎日新聞社、滋賀県、滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会の主催、

NHKの共催で14年3月2日に実施した。皇子山陸上競技場をスタート・フィニッシュとするコース。バズ・ウォルク（エチオピア）が優勝。日本人トップは佐々木悟（2位）。観覧者数24万人。競技場に設置した大型モニターで中継映像を公開したほか、「小学生1,000m記録会」を実施した。

### (6) 第15回長野オリンピック記念長野マラソン大会

日本オリンピック委員会、日本陸上競技連盟、長野県、長野市、信濃毎日新聞社の主催、NHKの共催で4月21日に実施した。長野運動公園をスタートし、長野オリンピックスタジアムをフィニッシュとするコース。男子は川内優輝（日本）、女子はナターリア・プチコワ（ロシア）が優勝。出場選手数9,068人。観覧者数は22万人。「NHK長野放送局ファミリーステーション」を展開した。

### (7) オープンゴルフ選手権競技

日本ゴルフ協会の主催、NHKの共催で、男子・女子・シニアの3大会を実施した。会場に設置した大型モニターで中継映像を公開した。

#### ①第46回日本女子オープンゴルフ選手権競技

10月3～6日、相模原ゴルフクラブ・東コース（神奈川県相模原市）で実施した。宮里美香が優勝。入場者3万4,003人。

#### ②第78回日本オープンゴルフ選手権競技

10月17～21日、茨城ゴルフ倶楽部（茨城県つくばみらい市）で実施した。小林正則が優勝。入場者9,139人。

#### ③第23回日本シニアオープンゴルフ選手権競技

10月31日～11月3日、麻生飯塚ゴルフ倶楽部ブルー・グリーンコース（福岡県嘉穂郡桂川町）で実施した。室田淳が優勝。入場者4,189人。

### (8) 第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会

日本サッカー協会、日本プロサッカーリーグの主催、NHKおよび共同通信社の共催で実施した。都道府県代表47チームとシード41チーム（J1-18、J2-22、JFL-1）の88チームで8月31日～14年1月1日実施。元日、国立競技場での決勝戦（入場者4万6,599人）では、横浜F・マリノスが優勝。大会を通じての総入場者38万4,676人。

### (9) 各都道府県サッカー選手権大会

45都道府県大会を各都道府県サッカー協会が主催し、NHKは主催または共催で実施した。各都道府県優勝チームは天皇杯の各都道府県代表として出場。

### (10) 第50回全国大学ラグビーフットボール選手権大会および第51回日本ラグビーフットボール選手権大会

大学選手権、日本選手権ともに、日本ラグビーフットボール協会が主催、NHKが共催で実施した。

大学選手権は11月9日～14年1月12日で実施。決勝戦は国立競技場で行われ、帝京大学が5年連続5回目の優勝。大会を通じての総入場者14万8,299人。

日本選手権は2月16日～3月9日で実施。決勝戦は国立競技場で行われ、パナソニックワイルドナイツが4年ぶり4回目の優勝。大会を通じての総入場者6万3,190人。

### (11) JAPAN CUP 2013 チアリーディング日本選手権大会

日本チアリーディング協会の主催、NHKの共催で8月23～25日、国立代々木競技場・第一体育館で実施した。201チーム2,836人が参加。優勝は、〔中学校部門〕箕面自由学園中学校（大阪府）、〔高等学校部門〕箕面自由学園高等学校（大阪府）、〔大学部門〕日本文理大学（大分県）、〔社会人部門〕クラブチームツイスターズA（東京都）。入場者2万1,132人。

### (12) NHKスポーツパーク

NHK解説者や一流の講師によるスポーツ教室とトークショー等を組み合わせた家族で楽しめる総合的なスポーツイベント。「松岡修造のテニスパーク」を全国2会場で実施した。参加者900人。

### (13) NHKジュニアスポーツ教室

野球、サッカー、バレーボール、水泳、バスケットボール、陸上の各競技種目を一流講師が全国14会場で指導した。参加者2,844人。

## Ⅷ. 東日本大震災復興支援イベント

### (1) NHK公開復興サポート 明日へ

被災地に赴き、日頃苦勞している被災者に笑顔になってもらうため、幅広い番組・イベントを短期間に集中して実施した。

岩手県大船渡市では、大船渡市民文化会館を会場に5月18、19日に7番組を収録した。来場者6,022人。

宮城県石巻市では、石巻専修大学を会場に10月20日に11番組と13イベント・展示を実施。来場者4,523人。

## Ⅸ. 会館公開・展示

### 1. NHKスタジオパーク

前身は1965年開設の「見学者コース」。85年に「NHK展示プラザ」と名称変更し、その後、95年3月22日、放送開始70周年を記念して「NHKスタジオパーク」と改称し、リニューアルオープンした。00年3月には「放送75周年事業」の一環として、より参加感のある新コーナーを設置した。さらに、12月にはBSデジタル放送の開始に合わせて「BSデジタルタウン」を設置し、03年12月には、地上デジタル放送の開始に合わせて「BSデジタルタウン」を拡充し、「デジタル放送ひろば」とした。

04年12月には「パークギャラリー」「スタジオショップ」を全面改修、07年6月に総入場者数1,000万人を達成した。11年には、放送の完全デジタル化に合わせて展示コーナーを一新するため、4月から約半年間、全館休館とし、10月10日にリニューアルオープンした。新生スタジオパークでは、次世代テレビ「スーパーハイビジョン」の上映設備をはじめ、番組制作体験や放送の舞台裏に触れることができるコーナーを拡充した。11年10月のリニューアルオープンから14年3月末までの入場者は148万9,900人。

#### 【リニューアル後の主な展示内容】

#### ①スーパーハイビジョン

360インチ大画面の臨場感あふれる超高精細映像と22.2chの立体音響を備えた次世代テレビ。

#### ②CR-350スタジオ

ラジオの公開番組とNHKオリジナル映像の上映。

#### ③アニメファクトリー

アフレコ体験やアニメの制作過程を映像や資料で紹介。

#### ④クリエイティブラボ

来場者が映像と音を編集、オリジナル番組の制作を体験。

#### ⑤スタジオパークNEWS

アナウンサーやカメラマン体験をしながら、ニュース番組の制作に挑戦。

#### ⑥CT-450スタジオ

『スタジオパークからこんにちは』『ゆうどきネットワーク』『土曜スタジオパーク』『日曜バラエティー』などの番組を公開。

### ⑦ネイチャーカメラマン

『ダーウィンが来た!』など自然番組の撮影に使う特殊カメラの操作を体験。

このほか、	レストランやショップなどがある。
所要時間	約1時間
開館時間	午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
休館日	原則として毎月第4月曜日（祝日・振替休日と重なる場合は、その翌日） ※休館日は変更あり
入場料	個人 200円（団体・20人以上は150円）※高校生以下および18歳未満、ならびに65歳以上無料

## 2. みんなの広場 ふれあいホール

「みんなの広場 ふれあいホール」では、さまざまな公開番組やイベントなどを開催している。また、06年6月からは、3階の展示スペースを「ふれあいホールギャラリー」としてリニューアルし、“市民に開かれた文化発信スペース”として一般貸し出し（有料）を開始した。また、放送センターの番組公開ライブラリーとして3階にアーカイブスを併設している。13年度は、ギャラリーとアーカイブス合わせて3万5,373人の利用があった。

開館時間	午前10時～午後6時
入場料	無料

## 3. NHK放送博物館

“発信・発見・感動のあるミュージアム”として、13年度も積極的・意欲的に事業展開を行った。幅広い年代層にわたる入館者の確保・増加を図りながら、視聴者とNHKを結ぶ最前線としての重要な役割を果たしている。積極的に事業展開した結果、入館者数は11万8,960人（歴代7位）となった。

放送博物館の業務運営の基本は、放送の歴史にとって貴重な資料（放送文化財）の計画的な収集、分類、分析、保存、展示等である。さらに、これらの上で立つて行う事業展開の2本の大きな柱として、企画展示と愛宕山ホール等におけるイベントがある。

企画展示では、「あたご、咲く」「テレビ60年 テレビ美術の世界」「所蔵資料展 可搬型VTRの変遷」「思い出の『中学生日記』」「ざわざわ森のガンちゃん仲間たち」「作家たちの直筆原稿～寺山修司の詩を直筆からしのぶ」「東京オリ

ピックとテレビ」「元祖音楽バラエティー 三木鶏郎の世界～生誕100年」「ソチオリンピックと冬季五輪」「特集・半世紀前の人気番組～テレビも高度成長時代を迎えた」「あたご、春!～浮世絵の愛宕山」など研究調査の蓄積や放送現場等との連携に立脚した展示を行い、内外の注目を集めた。

イベントでは、「放送記念日文化講演会（永六輔）」「大河ドラマをめぐる人たち『軍師 官兵衛』」「藤山一郎を歌う」「愛宕山コンサート」「愛宕山講談会」「新みんなの健康教室」「中高生のための放送講座」「俳句自然塾」「工作教室」「中継車がやってくる!」「アナウンサーが語る伝説のアナウンサー」「ワークショップ 山田太一『わたしのドラマ体験から』」ほか、多彩な企画で入館者の期待に応えた。

こうした取り組みの結果、従来比較的少なかった20～40代の来館者も多く訪れるようになり、入館者層の幅が幼児から高齢者にわたって広がってきている。

また、産業文化博物館コンソーシアム（COMIC）、港区ミュージアムネットワークなど博物館・美術館との連携を密にしながら、地域文化の中核としての活動強化にも努めている。加えて、映像・活字・電子系のメディアを通じてのPRにも積極的に取り組んでいる。

### （1）資料の収集・保存

放送史上貴重な資料（図書・文献、台本、機器など）の収集を行った。また、資料データベースの充実を図った。

### （2）展示・企画展

「あたご、咲く」（3～4月）、「テレビ60年 テレビ美術の世界」（4～7月）、「所蔵資料展～可搬型VTRの変遷」（7～9月）、「思い出の『中学生日記』」（7～9月）、「ざわざわ森のガンちゃんと仲間たち」（7～10月）、「作家たちの直筆原稿～寺山修司の詩を直筆からしのぶ」（9～11月）、「東京オリンピックとテレビ」（10～2月）、「元祖音楽バラエティー 三木鶏郎の世界～生誕100年」（12～3月）、「ソチオリンピックと冬季五輪」（12～3月）、「半世紀前の人気番組～テレビも高度成長時代を迎えた」（3～6月）、「あたご、春!～浮世絵の愛宕山」（3～5月）を実施した。

### （3）普及業務

#### ①イベント

「放送記念日文化講演会（永六輔）」「大河ドラマをめぐる人たち『軍師 官兵衛』」「藤山一郎を歌う」「愛宕山コンサート」「愛宕山講談会」「新みんなの健康教室」「中高生のための放送講座」「俳



句自然塾」「工作教室」「中継車がやってくる!」  
「アナウンサーが語る伝説のアナウンサー」「ワークショップ 山田太一『わたしのドラマ体験から』」などを開催した。

## ②NHK番組を見る会

『BSスペシャル～新宿鮫 無間人形』『NHKスペシャル～プラド美術館』『ハイビジョン特集～奇跡の山 富士山』『アニメ特集～おしりかじり虫, 忍たま乱太郎』『ハイビジョンスペシャル～世界の山岳鉄道』『プレミアム8世界一番紀行～世界で一番寒い村』『NHKスペシャル～パールハーバー 日米の運命を決めた日』『ハイビジョンさわやか自然百景 新春スペシャル 四季 日本列島』『ハイビジョン～美しき日本 百の風景かやぶきの春うらら』などのほか、落語などを上映した。

## ③移動放送博物館

鹿児島局（4月27～28日）、福井局（5月18～19日）、松山局（7月30日～8月4日）、福島局（8月23～25日）、宮崎局（10月26～27日）、宇都宮局（11月2～3日）、山形局（11月9～10日）、さいたま局（2月1日）、大分局（2月22～23日）、名古屋局（3月1～2日）、京都局（3月15～16日）で開催し、合計で7万9,250人が来場した。

## ④中高生のための放送講座

8月1, 2日実施。18組57人が参加した。

## ⑤学芸員実習

9月5～11日の7日間実施。9大学11人が参加した。

# NHKの情報公開

## (1) NHKの情報公開の特色

01年7月から開始したNHKの情報公開の主な特色は、次の3点である。

①国や地方自治体、独立行政法人のように法律・条例によって義務づけられて行うのではなく、NHKが自主的に実施するものである。受信料は税金ではないこと、また、NHKは報道機関であることから、NHKの自主・自律性に配慮した結果である。

②放送番組や放送番組の編集に関する情報を記録した文書については、情報開示の求めの対象外としている。NHKが公共放送としての使命を果たしていくためには、放送番組編集の自由の確保は不可欠である。もし番組そのものや、番組素材、その制作・編成関係の文書を開示すると、自由な番組編集に支障が生じ、ひいては公共放送として

の使命が果たせなくなることから、情報開示の求めの対象外とした。そのうえで、可能な範囲で関係情報の提供に努めていく。

③NHKの不開示等の判断に対して、第三者機関による公正・客観的なチェックの仕組みを整えている。5人の有識者で構成される「NHK情報公開・個人情報保護審議委員会」が、視聴者からの再検討の求めがあった際に、委員会としての意見をNHKに述べる。NHKは、その意見を尊重して最終判断を行う。

## (2) NHKの情報公開の仕組み

NHKの情報公開は、基本的枠組みを定めた「NHK情報公開基準」(00年12月制定)と、それをさらに具体化した「NHK情報公開規程」(01年6月制定)に基づいて進めている。この情報公開規程は、情報公開基準に基づき情報公開を実施していくために必要な事項を定めている。主な内容は次のとおり。

### ①開示の求めの対象となる文書

NHKの役職員が業務上共用するものとして保有している文書（電磁的に記録されたものを含む）が、開示の求めの対象となる。

ただし、放送番組編集の自由を確保する観点等から、次のものについては対象外となる。

- (i) 放送番組および放送番組の編集に関する情報を記録したもの（放送番組の企画、取材、収録等について記録した文書など。ハードディスク・DVD等を含む）。
- (ii) 書籍、雑誌等不特定多数の者に販売することを目的として発行されるもの。
- (iii) 歴史的もしくは文化的な資料または学術研究用の資料としてNHK放送博物館等において特別の管理がされているもの。

### ②開示の求めのできる者

NHKの放送の視聴者。

### ③受付場所・方法

全国の放送局・支局に、日本語で記入した申込書を持参または郵送で提出する。

### ④開示できない文書

開示の求めの対象となる文書は、原則として開示する。

ただし、次の情報（不開示情報）が記載されている場合を除く。

- (i) NHKの権利利益、地位、事業活動に支障を及ぼすおそれがあるものや、特定の者に利益等を及ぼすおそれがあるもの。
- (ii) NHKの審議、検討、協議が円滑に行われることを阻害するおそれがあるもの。

- (iii) 特定の個人を識別できるものや、個人の権利利益を害するおそれがあるもの。
- (iv) NHK以外の法人、団体、個人事業主の権利等を害するおそれがあるもの。
- (v) NHKの保安に支障を及ぼすおそれがあるもの。
- (vi) 契約によりNHKが守秘義務を課せられているものや、契約の相手方が開示を承諾しないもの。

#### ⑤開示・不開示等の判断までの期間

申込書を受け付けた翌日から30日以内に開示・不開示等を判断し、書面により連絡する。

#### ⑥開示の実施方法

配達日の翌日から起算して2週間以内に、閲覧またはコピーを提供する（電磁的に記録されたものについては、プリントアウトし、閲覧またはコピーを提供する）。

#### ⑦費用

閲覧のためにコピーやプリントアウトが必要な場合も含め、次の費用は視聴者負担となる。

- ・ 白黒コピー：1枚につき10円
- ・ カラーコピー：1枚につき50円
- ・ 郵送料：実費

なお、14年度からは「開示の求め手数料」を新設することになっている。

#### ⑧再検討の求め

一部開示・不開示の判断結果について、視聴者は2週間以内に「再検討の求め」ができる。

その場合NHKは、NHK情報公開・個人情報保護審議委員会に諮問し、その意見を尊重して開示・不開示等の最終的な判断を行い、直ちに書面により視聴者に連絡する。

#### ⑨実施状況の公表

実施状況について、毎月、NHKの公開ホームページで公表する。

### (3)「開示の求め」

#### ①受付状況

13年度は、全国の放送局・支局において、79人の視聴者による824件の開示の求めがあった。

#### ②検討結果

765件について検討を終えた。(表3)

表3 「開示の求め」検討結果

判断結果	件数	備考
開示	403件 (A)	うち、一部開示114件
不開示	340件 (B)	うち、文書不存在271件
対象外	22件	うち、4件で情報を提供

#### ③開示率 (A/(A+B))

765件についての開示率は54%である。

#### ④「開示の求め」の内容

13年度に受け付けた824件の内訳は次のとおりとなっている(表4)。

表4 「開示の求め」の内訳

分野	件数	割合
経営	136件	17%
放送	112件	14%
営業	141件	17%
技術	9件	1%
広報・事業	116件	14%
総務・経理	309件	38%
その他	1件	0%

### (4) NHK情報公開・個人情報保護審議委員会

NHK情報公開・個人情報保護審議委員会は、「開示の求め」についてのNHKの一部開示・不開示の判断に対して「再検討の求め」があった場合に、審議を行い、NHKに意見を述べる第三者機関である。

#### ①委員

NHK情報公開・個人情報保護審議委員会の委員は、5人以内で、経営委員会の同意を得て会長が委嘱する。任期は2年、再任は可である。13年度末現在、次の方々に委員を委嘱している。

委員長 大島 崇志 氏 (弁護士)

委員長代行 斎藤 誠 氏

(東京大学大学院法学政治学研究所教授)

委員 宮内 忍 氏 (公認会計士)

委員 米倉 久邦 氏

(元共同通信社論説委員長)

委員 小泉 万里子 氏

(元厚生労働省宮城労働局長)

#### ②開催回数

13年度、NHK情報公開・個人情報保護審議委

員会は、22回開催された。

## (5)「再検討の求め」

### ①受付状況

13年度は、NHKが一部開示・不開示の判断をしたもののうち、286件について再検討の求めを受け付けた。このうち5件は諮問せず開示した。

### ②審議結果

13年度、NHK情報公開・個人情報保護審議委員会は、前年度からの継続案件も含め、154件について審議し、148件の答申を行った。(表5)

NHKは、すべての案件について、審議委員会の答申どおりの最終判断を行った。

表5 13年度審議結果

審議結果	件数
当初判断どおり一部開示・不開示が妥当	137件
一部開示の範囲を広げるか、開示が妥当	6件
不開示ではなく一部開示・開示が妥当	5件

## NHKの個人情報保護

### (1) 個人情報保護法

#### ①個人情報保護法の施行

05年度から「個人情報の保護に関する法律」(個人情報保護法。以下「法律」という)が全面施行され、NHKもこの法律が定める「個人情報取扱事業者」に該当することから、さまざまな法律上の義務が課され、個人情報の取り扱いを適正に行うことが求められている。

#### ②法律の義務の適用除外

この法律が成立する過程で、個人情報保護に関する「利用目的による制限」「適正な取得」「正確性の確保」「透明性の確保」といった基本原則が、「表現の自由」「報道・取材の自由」などの基本的人権を制約するおそれがあるとの指摘が、メディアを中心になされた。

このため、法律は、報道機関が報道目的で個人情報を取り扱う場合、著述を業とする者が著述目的で個人情報を取り扱う場合などは、個人情報取扱事業者としての義務の適用を除外した。その一方で、義務の適用が除外される場合については、事業者が自主的に個人情報の適正な取り扱いについての措置を講じ、それを公表するよう努めることを求めた。

### (2) NHKの個人情報保護の取り組み

#### ①NHKの取り組み

##### ア NHK個人情報保護方針

NHKにおける個人情報保護に関する最上位の規程で、法律上の義務が適用除外となる報道・著述・学術研究分野を含め、NHK内の個人情報全般の取り扱いについて宣言的に定めている。

##### イ NHK個人情報保護規程

法律上の義務の適用を受ける分野(営業・事務分野等)を対象に、実務上の手続きを中心に定めている。

視聴者本人から自己情報の開示等の求めが出された場合、原則として視聴者が求める措置を取ることとなるが、開示するとNHKの業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合等は、求められた措置を取らなくてもよいとされている。

このような場合の救済策として、法律上の要請はないが、NHKとして自主的に、視聴者からの「再検討の求め」を受け付け、第三者機関「NHK情報公開・個人情報保護審議委員会」において審議してもらうこととしている。

##### ウ 報道・著述・学術研究分野に係る個人情報保護規程

法律上の義務が適用除外となる報道分野等について、自主的に、安全管理や苦情への対応について定めている。

#### ②NHKにおける個人情報の管理・責任体制

上記規程に基づき、NHKにおける個人情報の管理については、副会長がこれを統括し(報道分野等については放送総局長)、各部局においては、各部局長が全責任を持って管理することとなっている。

しかしながら、13年度においては、個人情報の漏えいや紛失が合わせて14件発生した。

これらの事案はいずれもホームページで公表するなどしているが、NHKとして、今後はこのような事態が起きないように、個人情報の取り扱いについては、くれぐれも細心の注意を払い、その適切な取り扱いに努めていく。

#### ③個人情報の開示等の求めへの対応状況

13年度に視聴者本人から出された個人情報の開示等の求めは、開示の求めが27件あり、検討結果は表6のとおりである。

表6 個人情報の開示等の求めへの対応

検討結果	件数
開示	16件
一部開示	4件
不開示	3件
検討中	1件

※その他、適用外が1件、取り下げが2件あった。

#### ④「個人情報 再検討の求め」の審議状況

13年度に受け付けた個人情報に関する再検討の求めは1件であり、審議委員会は、NHKが不開示とした当初判断を妥当とした。NHKはその意見どおり最終判断を行った。

## 広 報

### I. 経営広報

#### 1. 会長会見とマスコミ対応

会長定例記者会見をはじめ、臨時の記者会見、ブリーフィング、個別の取材対応などを通じて、NHKの経営情報をさまざまな形で発信した。

会長定例記者会見は原則月1回。会長と副会長、テーマに応じて関係役員が出席して、NHKや放送業界全体に関わることなどについて説明した。

3か年経営計画の2年目となったこの1年間には、4つの重点目標である「公共」「信頼」「創造・未来」「改革・活力」の達成に向けたNHKの取り組みについて、丁寧に伝えた。特に受信料の値下げの減収影響が通年化する中、全局を挙げた「プロジェクト810」や営業改革など、増収の確保と経費削減の取り組みについて、情報を発信した。また、経営情報について、視聴者により迅速に伝えるため、13年度から決算の速報と中間決算の概要について、初めて発表した。

ソチオリンピックでは、放送概要に加え、デジタルサービスとして、新たに始まったハイブリッドキャスト、一部の競技で実施したライブストーリーミング、8Kスーパーハイビジョンによるパブリックビューイングなど、NHKの取り組みを詳細に発信した。

参議院選挙では、ネット選挙運動解禁を含め、開票速報の見どころやネットサービスのほか、比例代表の政見放送で、初めて字幕を付与して放送することなどを丁寧に伝えた。

東日本大震災に関連しては、被災地のさまざまな課題に向き合う番組や復興への歩みを支援する

イベントを周知するなど、NHKが全局を挙げて取り組んでいることを伝えた。震災を受けて対策を進めている放送機能の強化や、気象庁が運用を開始した特別警報の速報など、災害報道での新たな取り組みについても分かりやすく広報した。

また『NHKスペシャル』で話題となった深海のダイオウイカの関連イベントなど、番組と連動したNHKの取り組みを、積極的に発信した。

13年度は会長の交代があり、それに伴う各種の会見を行った。1月25日の就任会見での発言を受けて、継続して広報対応に当たった。

放送技術研究所の元職員の架空発注を巡っては、臨時に記者会見を開き、内部調査を基に事案の概要を説明するとともに、刑事告訴する方針を発表した。また、3月のNHK出版の元編集長による架空の校正業務の発注などを受けて、NHK関連団体ガバナンス調査委員会（委員長・小林英明弁護士）が発足するなど、不祥事関係の対応が続いた。

#### ◇会長定例記者会見の主な内容

- 4月 13年度のスタートにあたって  
12年度の営業業績総括  
「渋谷DEども2013」
- 5月 12年度決算の速報と営業業績確定値  
NHK放送技術研究所一般公開  
「NHK視聴者ふれあい報告書2013」
- 6月 第1期営業業績  
ミャンマーでのNHKドラマの放送  
「ダイオウイカ」関連など夏のNHK主催  
展覧会
- 7月 参議院選挙の放送  
未契約世帯に対する民事訴訟の初の司法判  
断  
「ABUアジア・太平洋ロボットコンテス  
ト」
- 9月 2020年のオリンピック・パラリンピックの  
開催都市決定の放送  
第2期営業業績  
「手話CG」評価ホームページの開設
- 10月 受信料値下げから1年と上半期営業業績  
年度前半の番組総括  
「第40回日本賞」NHK文化祭2013
- 11月 13年度中間決算の概要  
ソチオリンピック現地派遣キャスター  
「NHK歳末・海外たすけあい」
- 12月 会長任期を迎えるにあたって  
第4期営業業績  
『第64回NHK紅白歌合戦』



- 1月 最後の定例会見にあたって  
ソチオリンピックの放送計画  
「第43回番組技術展」
- 2月 就任会見での発言  
第5期営業業績  
「第64回日本放送協会放送文化賞」
- 3月 ソチオリンピックの放送の総括  
「ふるさとの食にっぽんの食 全国フェスティバル」  
「NAB2014」でのNHK最新技術展示

#### ◇その他の主な記者会見

- ・放送技術研究所元職員の架空発注 (10.16)
- ・榎井会長就任会見 (1.25)
- ・堂元副会長就任会見 (2.12)

## 2. 国際広報

NHKの国際的なプレゼンスを高めるため、そしてNHKの国際関係の経営情報について視聴者の理解を深めるため、国際放送やコンテンツの国際展開などについて国内外のメディアに積極的に情報発信した。

月2回の定例会見ごとに最新の取り組みなどを発表した。また、スタジオ見学会、番組出演タレントの取材会等を開いて国際放送の取り組みを国内向けにPRした。

NHKワールドTVについては、視聴可能世帯が全世界で2億7,000万世帯に達するなどした受信環境整備、歌舞伎や映画などの日本文化を紹介する新年度番組の情報などを広報した。

コンテンツの国際展開についても、人気を集めた『連続テレビ小説』「あまちゃん」のアジアへの展開や、経済成長著しいミャンマーなど東南アジア各国へのドラマ提供などについて記者会見や報道資料を通じて発表した。

いずれも、日本から海外への情報発信といった側面からメディアの関心が高く、多数寄せられた新聞や雑誌などの取材に対応した。

このほか、外国メディアへの対応としては、8Kスーパーハイビジョンなど放送技術の研究・開発や、主演が初の海外からのヒロインとなる14年度後期の連続テレビ小説『マッサン』など、海外メディアの関心が高そうな話題を積極的に英文で報道発表した。8Kスーパーハイビジョンとハイブリッドキャストについては、ベトナム・ハノイで開かれた「ABU・アジア太平洋放送連合総会」での展示に合わせて、現地でメディア向けのブリーフィングを実施し、ベトナムのテレビや新聞などで紹介された。また、『第64回NHK紅白歌

合戦』では、フランス・ルモンド紙をはじめ、アメリカ・中国などの計6社が取材に訪れ、国内のメディアでも「紅白に多数の海外メディア」などと紹介された。

また、韓国KBSとタイPBSから公共放送の先進例として取材を受けた。災害報道の取り組みや大型ドキュメンタリー、大河ドラマの制作などについて、それぞれ特別番組として放送された。

国際協力の分野では、ベトナムで開かれた「ABUロボコン2013ダナン大会」について現地で広報対応を行い、日本代表の金沢工業大学が優勝したことが内外のメディアに取り上げられた。

会長の就退任に際しては、海外メディアの取材に対応した。

広報資材としては、年次活動報告「NHK Annual Report 2013-2014」とPRビデオ「NHK 2013」の英語、中国語、韓国語の3か国語版を制作したほか、NHKの経営情報を紹介する英語版ホームページ、NHK Corporate Informationを大幅に刷新、デザイン・情報ともに充実を図った。

13年度の主な報道発表は以下のとおり。

- ・仏ジャパンエキスポにNHKワールドTVが出展（日本語・英語、6.19）
- ・NHKワールドTVが米ロサンゼルスで24時間放送へ（日本語・英語、7.24）
- ・ABUロボコンで金沢工業大学が優勝（日本語・英語、8.18）
- ・新サービス「NHKハイブリッドキャスト」開始へ（英語、8.21）
- ・NHKワールドTVが豪州などで24時間放送拡充（日本語・英語、9.5）
- ・NHKワールドTVのPR番組にタレントのすみれさんを起用（日本語・英語、9.18）
- ・「あまちゃん」海外へ、台湾とタイで放送（日本語・英語、10.23）
- ・NHKワールドTVの国内スポットにデーモン閣下が出演（日本語、12.2）
- ・世界初、アイソソ<sup>アイソソ</sup>彗星の4K映像の撮影成功（英語、12.2）
- ・NHKワールドTV、視聴可能世帯数が2億7,000万世帯に（日本語・英語、1.14）
- ・「あまちゃん」インドネシアで放送（日本語・英語、1.30）
- ・ミャンマーで「カーネーション」と「篤姫」の放送予定決まる（日本語・英語、2.26）
- ・『連続テレビ小説』「マッサン」のヒロインにアメリカ人女優を起用（英語、3.5）
- ・NHKワールドTVが全米65都市で24時間放送

(日本語・英語, 3.19)

### 3. 技術広報

NHKは豊かな放送文化の創造に向け、新たな放送技術の研究や開発、実用化、普及において先導的な役割を果たしている。NHK技術の取り組みについて、積極的に情報発信した。

20年のオリンピック・パラリンピック開催地が東京に決定したことを受けて8Kスーパーハイビジョンへの関心が一段と高まったこともあり、新たなサービスの研究・開発の最新動向などを中心にPRした。

8Kスーパーハイビジョンや9月にサービスを開始したNHKハイブリッドキャストなどについて、機会を捉えてサービスの魅力などについて分かりやすく広報した。

#### (1) スカイツリー移転に向けた取り組み

東京スカイツリーへの送信所移転に向けては、対策の状況を会見や個別取材で的確に発信し、民放5社との環境づくりにも努め、5月末に移転を完了した。移転後も、その後の状況等を逐次広報することで円滑な移行を推進した。

#### (2) 新サービスPR

ハイブリッドキャストについては、サービス開始前、総務省への認可申請時、放送と連動した本格的なサービス開始時にプレゼンテーションを実施した。特に放送と連動した本格的なサービスについては、サービスの魅力や今後の展望などを分かりやすく紹介した。

#### (3) ソチオリンピックでの取り組み

ソチオリンピックで初めて実施したハイブリッドキャストの新機能である「番組巻き戻し再生サービス」について、デモンストレーションを交えてPRした。また、期間中に開催した8Kスーパーハイビジョンパブリックビューイングについて、国内のみならず、現地でも関係者にPRした。

#### (4) 放送技術の研究・開発の広報

放送技術の開発においてNHKが担っている先導的な役割について、機会を捉えて国内外にPRした。

オリンピックを切り口にした技術進展や20年の本放送開始を目指した8Kスーパーハイビジョン技術に関する取材対応を行い、開発の現状、将来のテレビの姿などを国内外にアピールした。

技研公開については、会長定例記者会見での見所紹介やプレスプレビューを実施した。

環境経営の取り組みとして、燃料電池を使った電源装置の開発について、また、放送機能強化の

取り組みとして、太陽光や風力などの自然エネルギーで運用可能なロボットカメラの開発についても広報した。

#### (5) イベントを通じた技術広報

『紅白歌合戦』、「東京ガールズコレクション」、「NHK杯フィギュアスケート」などで実施した8Kスーパーハイビジョンパブリックビューイング、NAB2013やCEATEC JAPANでのNHK展示、InterBEE（国際放送機器展）などについて広報し、来場者の拡大を図った。多くの来場者に8Kスーパーハイビジョンの高臨場感を体感いただき、NHKの新技术に接触する機会を増やすことにつながった。

#### (6) 印刷物やホームページでの広報

番組制作、報道、番組送出、送信・受信技術、研究開発などにおけるNHKの技術の取り組みを紹介する「NHKの放送技術2014」を発行した。

ホームページ「NHKデジタル」も一部改訂し、新サービスやデジタル受信機のネット接続などの周知を行った。

また、8Kスーパーハイビジョン、ハイブリッドキャストのパンフレットとチラシをメディア企画室と連携してリニューアルし、展示会やパブリックビューイング会場で配布し、新サービスへの理解促進に努めた。

#### (7) 主な報道発表

- ・宮城県石巻市「長尾テレビ共同受信施設」の復旧について (4.1)
- ・「物の輪郭をなぞる感覚」を再現できる装置を開発 (5.9)
- ・新しい多視点ロボットカメラシステムを開発 (5.9)
- ・世界初！スーパーハイビジョン（8K）HEVC符号化装置を開発 (5.9)
- ・「第67回 技研公開」の開催について (5.9)
- ・酸素や水分に強い有機ELデバイスを開発 (5.16)
- ・単一周波数ネットワークによるスーパーハイビジョン（8K）の地上伝送実験に成功 (5.16)
- ・低遅延型デジタルラジオマイクの伝送方式を開発 (5.23)
- ・ハンディカメラでリアルタイムCG合成を実現 (5.23)
- ・超小型スーパーハイビジョン（8K）Cube型カメラヘッドを開発 (5.27)
- ・「2013年 ウォルター・コソノキー賞」を受賞～8Kイメージセンサーの研究に対して～ (6.18)
- ・手話CG 評価ホームページを開発 (9.5)
- ・「テレビの進化を体感！」「CEATEC JAPAN

- 2013”に出展(9.26)
- ・「SMPTEプログレスメダル賞」を受賞～長年にわたる放送技術への貢献に対して～(10.25)
- ・高性能IPビデオルーターを開発(10.31)
- ・第43回 番組技術展～放送現場のアイデアから生まれる技術を紹介～(12.5)
- ・8Kスーパーハイビジョン～地上波での長距離伝送実験に成功～(1.20)
- ・「第68回 技研公開」の日程を決定(2.13)
- ・進化する8Kスーパーハイビジョンを中心に最新技術を展示@NAB2014(3.6)

## II. 番組広報

### 1. 放送総局長会見と番組取材会

原則月1回、記者クラブ加盟社を対象に、放送総局長の定例記者会見を行い、NHKの番組広報に努めた。会見では、翌月に放送する番組の中から選りすぐりの番組の見どころなどを紹介し、さらに、PR映像を上映、番組制作者の解説なども交えて、番組の魅力を伝えた。また総局長会見に合わせてテレビ雑誌など記者クラブ以外のメディアにも同様の内容を説明した。

番組改編時や夏の特集、年末年始特集については、冊子を発行し、各メディアへ配付するとともに、総局長会見でも内容を詳しく説明した。テレビ情報誌や一般の週刊誌などに対しても別途説明した。

総局長会見以外にも個別番組ごとに、取材会や試写会に精力的に取り組んだ。『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』『紅白歌合戦』をはじめとするドラマ番組やエンターテインメント番組、『NHKスペシャル』などの大型特集番組や「新年度 キャスター会見」等、放送決定や完成試写会のお知らせなどをマスコミ各社に周知し、出演者やプロデューサーなどが出席する会見を開いた。

『大河ドラマ～八重の桜』では、年間を通して多くの取材会を行った。会津若松市でのクランクイン取材会や、出演者が東北を訪ねる関連番組をPRするなど、震災復興を応援する広報活動にも取り組んだ。『連続テレビ小説』は、前期の「あまちゃん」、後期の「ごちそうさん」共に平均視聴率が20%(ビデオリサーチ 関東地区)を超え、大きな支持を得た。流行語を生みだすなどの社会現象にもなった「あまちゃん」は、多様な広報展開を行った。「ごちそうさん」も、ドラマで登場

した食のメニューが視聴者の関心と呼ぶなど、多くの媒体に取り上げられた。また、13年度10本放送した地域放送局制作ドラマの広報支援を行い、全国展開に貢献した。

『第64回NHK紅白歌合戦』においては、今回のテーマ「歌がここにある」の発表から、「司会者」「PR大使」「出場歌手」「曲目」「審査員」「曲順」など、決定の節目ごとに記者会見や発表を行い、多彩な広報展開を図った結果、大変多くの媒体に取り上げられ、放送後も大きな話題になった。

2月のソチオリンピック、3月のソチパラリンピックでは、大会期間中、放送情報や反響などを毎日配信し、両大会の盛り上げに貢献した。

#### ◇放送総局長定例記者会見の主な内容

- 4月 『NHKスペシャル～病の起源』新シリーズ  
歌舞伎座新開場 関連番組
- 5月 富士山・世界遺産関連番組  
『英雄たちの選択～勝海舟 江戸城無血開城～』
- 6月 夏の特集番組  
戦後史証言プロジェクト
- 7月 「震災と防災を考える1か月」関連番組  
「特別警報」への対応について  
「いじめを考えるキャンペーン」について
- 9月 平成25年度後期番組改編  
『SWITCHインタビュー 達人達(たち)』  
『伊藤英明 奇跡の海を潜る』
- 10月 ソチオリンピック関連  
『NHKスペシャル～“認知症800万人”時代』  
『連続テレビ小説～あまちゃん』海外展開について
- 11月 年末年始特集番組  
『NHKスペシャル～シリーズ遷宮』  
『大河ドラマ～軍師官兵衛』関連  
『第64回NHK紅白歌合戦』関連
- 12月 ハイブリッドキャスト 新サービス開始  
『ゆく年くる年』  
『シャーロックホームズ』
- 1月 26年度番組改編  
「震災から3年」おもな番組  
『ザ・プレミアム～地球アドベンチャー 冒険者たち』
- 2月 『NHKスペシャル～人体 ミクロの大冒険』  
『NHKスペシャル～シリーズ 廃炉への道』



- 『連続テレビ小説～花子とアン』関連  
3月 『NHKスペシャル～シリーズ エネルギーの奔流』  
『ためしてガッテン～20年目の大感謝祭!』  
2014アメリカ大リーグ開幕

### Ⅲ. 広報制作

視聴者にテレビ・ラジオの放送予定を中心に伝える番組広報。デジタル放送への移行周知をはじめ、公共放送の姿勢を正しく伝える経営広報番組やスポットを制作・放送した。

また、同様にポスターや冊子など印刷物の編集・作成、インターネットや携帯サイト・SNSによる新しい視聴者の獲得などの展開、ネット広告・交通広告などの放送と連動した広報活動を行った。

#### 1. 広報番組

##### (1) 番組広報

「番組スポット」(地上波2波・週およそ3時間21分、衛星2波・週およそ4時間15分)を中心に、地上・衛星波で、毎日、番組PRを放送した。

『土曜スタジオパーク』(生放送)は、毎回2つの番組からゲストを迎え、出演番組の見どころや舞台裏など、魅力をたっぷりと伝えた。またNHKの最新情報やイベントを毎週発信した。13年度は3回(岩手県久慈市・京都市・大阪市)公開生放送を行い、地域サービスにも努めた。さらに、最新の番組制作情報、経営情報や番組の舞台裏などを紹介する『プレマップ』も随時放送した。

##### (2) 経営広報

日曜の朝にNHKの経営情報や番組情報を伝える『NHKとおきサンデー』は、朝の『連続テレビ小説』の20分ダイジェストを継続して、NHKの最新の番組情報や地域のNHKの取り組みとともに最新の経営情報を紹介している。13年度は8回の放送に会長や理事が出演し、経営目標などを直接視聴者に語りかけた。

7月の参議院選挙では、比例代表の政見放送を初めて字幕放送化した。要員の面ではOBパワーを活用して対応した。2月には猪瀬直樹都知事の辞職により、東京都知事選の政見放送対応にも急きょ対応した。1月の会長交替に際しては、退任、就任のあいさつを制作・放送。そのほか公共放送NHKを広く知っていただくため、NHK各部局や地域放送局の取り組みを広く紹介した番組『ここ

に、公共放送』を制作・放送した。

##### (3) そのほかの番組

2月に開催されたソチ五輪では、「全力応援」をキャッチコピーに選手出演のスポット、クラッチを集中放送。開催直前には生放送特番『全力応援!ソチオリンピック みんなでクイズ』を、さらに期間中はその日の見どころを伝えるPR番組『全力応援 きょうも一日BS1 ソチオリンピック』をBS1で7:45~7:50と8:45~8:50(再)に。総合では『全力応援 きょうのソチオリンピック』を12:43~12:45の昼2分枠と、18:58:55~18:59:55の夕方1分枠で連日放送した。BSではMLBやヨーロッパサッカーの告知を行い、スポーツが柱の一つであるBS1のステーションイメージを高めた。総合では、フィギュアのNHKスペシャルや総集編もPRし、特集番組の視聴率向上に貢献した。ヨーロッパサッカーや、上記のソチオリンピック、パラリンピックなどでも選手が出演したクラッチなどを放送してPRに努めた。また、BSの普及促進にも重点的に取り組んだ。BSの視聴拡大につなげるPR番組『秋のBS渋谷で会いまショー』(9月)を放送したほか、11月には「ミニミニ映像大賞」の予選会、12月には「ミニミニ映像大賞 グランプリ決定」をそれぞれ放送した。

深刻化するいじめ問題に向き合うため、放送やウェブなど部局を越えたさまざまな取り組みを通じて、全国の皆さんと一緒にいじめについて考えるキャンペーンを行った。事務局を担当した広報制作部では、キャンペーンや番組を紹介するプレマップ、メッセージスポット、クラッチなどを制作して、キャンペーンへの参加を広く呼びかけた。

#### 2. 広報印刷物や広告などによる取り組み

##### (1) 経営広報関連

- ①「平成25年度ことしの仕事」を作成、13年度の番組編成方針のほか各部局の事業計画を紹介。全国各局の広報活動で使用。
- ②小学校5年生の社会科で学ぶ「放送局の仕事」の副読本として、放送の仕組みと公共放送の役割を解説した冊子「NHKジュニアブック」(50万部)と「ニュース番組ができるまで」(DVD:5,000枚、VHS:500本)を作成。全国の放送局を通じ、希望する小学校に配付した。
- ③聴覚障害者向けに字幕版DVDを合わせて作成し、全国のろう学校等に配付した。

##### (2) 番組広報関連

- ①『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』のポスタ



表7 広報番組一覧 (2013年度)

	番組名	放送時間	内 容	備考
地	NHKとっておきサンデー 〔継続〕	総合 (日) 前11:00～11:54	12年度から54分の生放送広報番組としてリニューアルスタートした「NHKとっておきサンデー」。NHKの「見たい」番組＆「知りたい」情報を日曜日の午前中、総合テレビの生放送で伝え、朝の『連続テレビ小説』の1週間ダイジェスト、そしてNHKの経営情報や地域放送局の取り組み、最新の番組情報を紹介するなど、視聴者への「窓」としての役割を担った。キャスターは森山春香アナウンサー。スタジオアシスタントとリポーターは隔週で棚橋麻衣と矢野竜司が担当した。	番組情報を中心とした生放送パートはNSCに全面委託。「子ども、NHKです」と「あなたの街のNHK」パートは本体制作。 (40本)
	土曜スタジオパーク 〔継続〕	総合 (土) 後 1:50～ 2:50 (生放送)	毎回、2つの番組を取り上げ、ゲストとともに見どころや舞台裏など、魅力をたっぷりと伝えた。また、NHKの最新トピックスやゲストと視聴者の交流・特集企画など、盛りだくさんの内容でお届けした。	本体制作 (37本)
	もうすぐ9時 プレマップ 〔継続〕	総合 (月～木) 後 8:43～ 8:45	番組の見どころ、キャンペーンやイベント、経営・技術広報など、毎回1つのテーマで公共放送NHKの「今」を伝える広報番組。高視聴率帯に片山千恵子アナウンサーが明るくさわやかにプレゼンテーション。視聴者の理解を深め、接触率の向上を促進した。	NSCに全面委託 (170本)
	わたし流デジタルライフ *『知ってる!? デジタル』の後継番組 〔継続〕	総合 (日) 前 6:50～ 6:52 総合 (金) 後 3:12～ 3:14 *毎月最終週は、金曜枠のみ	デジタルガイドの鈴木奈穂子アナウンサーが、デジタル放送の魅力を紹介する番組。実際にデジタル放送を生活に生かしている視聴者の様子も紹介しながら、分かりやすく伝えた。	NSCに全面委託 (36本)
上	週末プレマップ 〔継続〕	総合 (土) 後 0:40～ 0:43 後 6:42～ 6:45	週末番組の見どころ、キャンペーンやイベント、経営・技術広報などを伝える広報番組。土曜の昼と夕方、片山千恵子アナウンサーが楽しくガイド。視聴者の理解を深め、接触率の向上を促進した。	NSCに全面委託 (40本)
	地上波スポット 〔継続〕	総合・Eテレ 随時 (30秒・1分)	番組・事業・経営広報などNHKのさまざまな取り組みを視聴者に効果的に伝え、公共放送の理解促進を深めた。	本体制作
	経営広報スポット 〔継続〕	地上・BS2波 随時 (5秒・30秒・1分ほか)	受信料のお知らせや「環境」などNHKが取り組んでいる重要なキャンペーンをスポット展開し、視聴者のNHKに対する理解を促進した。公共放送の意義をPRする『ここに、公共放送』も作成。	NSCに全面委託
	中央放送番組審議会 〔継続〕	総合 原則開催当月 最終日曜 前 6:50～ 6:52	各月の審議の概要を伝えた。 (特集編成等で変更の場合あり)	本体制作
	地方放送番組審議会 〔継続〕	総合 原則開催翌月 第2土曜 前11:20～11:22	各月の審議の概要を伝えた。 (特集編成等で変更の場合あり)	本体制作
	国際放送番組審議会 〔継続〕	総合 原則開催当月 最終日曜 前 5:45～ 5:47	各月の審議の概要を伝えた。 (特集編成等で変更の場合あり)	本体制作
	衛星	BSスポット 〔継続〕	BS2波・地上 随時 (15秒・30秒・1分)	BS2波の特性を生かした番組の魅力を、コンパクトに広報。戦略的な編成で、番組への関心呼び起こした。
その他		BS普及推進スポット 〔継続〕	BS2波・地上 随時 (30秒・1分ほか)	「ヨーロッパサッカー」や「ソチオリンピック」など衛星普及の節目に、スペシャルスポット・ミニ番組などを展開。
	政見経歴放送 〔継続〕	総合・ラジオ第1 随時	衆院選・参院選・知事選の政見経歴放送を実施した。	本体制作

一、リーフレット、メイキングDVD等を作成・配付し、全国の視聴者イベントや営業活動現場で活用した。「八重の桜」では、福島県などと相互協力で1年間、ラッピングジェットも展開した。「あまちゃん」では、音楽フェスティバル「サマーソニック」の会場でブース展開し、多くの若年層が来場した。

②ももいろクローバーZが初主演した、年末年始の『クリスマスドラマ～天使とジャンプ』番組PRについては、スポット、クラッチでのPRはもちろん、特設ホームページでは、SNSも意識したPR動画コンテンツを戦略的に配信。ももクロコンサートでの番組告知や、パブリシティ、スマホバナー広告、フェイスブックなどと連動させた統合的なプロモーションで、若年層と効果的なコミュニケーション活動を実施した。また、ももクロがゲスト出演した『土曜スタジオパーク』の回に合わせて、横浜赤レンガパークでパブリックビューイングイベントも実施。

### (3) 大型スポーツイベントの広報展開

①13年度最大のスポーツイベント、ソチオリンピックについては、全放送局が開幕前から“全力応援”の統一キャッチコピーの下、イベントの実施や広報資材の活用で、番組の視聴促進と地域の盛り上げに一丸となって取り組んだ。特にウインタースポーツが盛んな北海道、東北、長野、名古屋地区においては交通広告を中心に重点的な広報活動を行うとともに、札幌局と連携し、NHK杯ジャンプ大会や札幌雪まつりの会場でオリンピック放送のPRブースを展開。

②パラリンピックについても、「全力応援！新“すごい”基準、始まる」をコピーに首都圏を中心に広報を行った。

③11月の視聴率週間に合わせ、日本人選手が活躍するプレミアリーグ、ブンデスリーグ、セリエAの欧州サッカー中継についてのPRを行った。さらに、14年年明けにセリエAの名門・ACミランに移籍した本田選手のデビュー戦PRに、編成、スポーツと連携し効果的な広告展開を行った。

④MLBとプロ野球のNHK野球中継を広くPRするため、観戦ガイド、ポスターを作成した。

### (4) その他のサービス

13年度番組改定の「放送番組時刻表」を各拠点局別に作成。併せて視覚障害者向けに「点字番組時刻表」「音声CD版 番組時刻表」も作成、全国の盲学校・点字図書館など社会福祉施設に配付した。また、音声版時刻表はNHKオンラインからダウンロードできるサービスも実施。

## 3. インターネットによる広報

①広報局が管理・運営する番組情報サイトをより分かりやすくリニューアル。記者会見や取材会の様子を詳しく伝える「コレ見て！MOVIE」、番組スポットを集めた動画サイト「テレマップMOVIE」、若い女性をメインターゲットに“ゆる～く”番組を紹介する「WONDER！web」の各サイトも新たなコンテンツを制作し、さまざまな角度から番組紹介を行った。

②「WONDER！web」の企画の1つとして番組と連動した視聴者参加イベントを実施。女性向けサイトのため、イベントも女性に限定。出演者や番組スタッフによる撮影秘話を聞きながら、女性が好む“旅、食、写真”などをテーマにした。

③13～14年度の「春の新生活応援キャンペーン」では、編成・制作・営業セクションと連携しながら内容も若者層の“今求められるグローバル人材”をテーマにしたウェブサイトを開設。キャンペーンキャラクターは、元AKBの秋元才加さんを起用し、語学番組や教養系番組への誘導を図りながら、“自分磨きに役立つNHK”をスポット連携で強く訴求、キャンペーン展開を行った。

④年間を通じて開設している『大河ドラマ』『連続テレビ小説』の公式サイトもきめ細かなコンテンツ展開やLINE公式アカウント（「あまちゃん」アカウント友達数：約88万人）の効果的配信によって、番組を広範囲に浸透させた。「あまちゃん」ホームページは、最終回放送日、520万pvを記録する（NHK全ホームページの中で1位）など放送期間中多くアクセスされた。

表8 特集番組一覧（2013年度）

放送日	メディア	タイトル
4月5日	G	きらきら☆姫気分
4月6日	G	土曜スタジオパーク「あまちゃん」特集 岩手県久慈市から生放送
5月2日	G	大型連休は双方向番組まつり！
5月4日	BS1	BSプレマップ・松井秀喜スペシャル～背番号55の軌跡
6月	Gほか	AC共同キャンペーン スマホマナー
6月	Gほか	経営広報・環境プレマップ
7月31日	G	ミニミニ映像大賞 参加者募集中！
8月	G・BS1 ほか	ヨーロッパサッカーPRスポット
8月3日	G	土曜スタジオパーク「八重の桜」特集 京都・同志社大学から生放送
8月13日	G	夏トク真っ盛り！
9月28・29日	BSPほか	秋のBS渋谷で会いまショー
10月・3月	G	ここに、公共放送
10月～3月	Gほか	ソチ五輪アスリートクラッチ

放送日	メディア	タイトル
10月12日	G	土曜スタジオパーク「ごちそうさん」特集 大阪放送局から生放送
11月5日	G	ミニミニ映像大賞・あなたが選ぶミニミニ予選会
12月～	Gほか	NHKオンデマンドPRスポット・タイムマシン編
12～2月	Gほか	ソチ五輪PRスポット 歌のリレー編・アスリート編
12月～	Gほか	ドイツ・ブンデスリーガPRスポット 選手編
12月14日	G	ミニミニ映像大賞 グランプリ決定
12月21日 ほか	G	もうすぐ年末プレマップ～紅白編～
12月23日	G	NHKとおきサンデー増刊号 年末SP
12月28日 ほか	G	もうすぐ年始プレマップ～大河ドラマ編～ もうすぐ年始プレマップ～旅番組編～
12月31日	G	スタジオパーク 大みそかスペシャル
1月24日	Gほか	NHK松本会長 退任にあたって
1月25日	Gほか	NHK榎井会長 就任にあたって
1月27日	BS1	プレマップ 全力応援！ソチオリンピック みんなでクイズ
1月31日	BS1	全力応援！ソチオリンピック みんなでクイズ
2月～	Gほか	春の新生活応援スポット 秋元才加編・受信料編
3月	Gほか	全力応援！ソチパラリンピック
3月	Gほか	受信料関連スポット 住所変更PR（橋本環奈）編 新規口座PR（南沢奈央）編 BS契約PR（謎のメッセージ）編
3月	Gほか	BS視聴拡大スポット・クラッチ
3月	Gほか	春の改定プロモーション・春ドキ！クラッチ
3月26・28日	G・R1	NHK平成26年度予算審議～衆議院総務委員会
3月29日	G・R1	NHK平成26年度予算審議～参議院総務委員会
3月30日	BSP	にっぽんプレミアム プロローグ

## 営業

### 営業の組織

#### (1) 営業拠点

受信契約の徹底と受信料の確実な収納を図るため、各地域放送局内の営業部のほかに、大都市圏地域には18の営業センターを置いている。全国合わせて75の営業部と営業センターを営業活動の拠点としている。各営業拠点では、地域別や業務内容別（地域スタッフ対応、事業所対応、お客様対応など）に業務実施グループを編成し、営業活動を実施している。

#### (2) 営業活動単位

##### ①営業職員

地域スタッフの指導や支援活動、ケーブルテレビ・事業所などとの渉外業務や、視聴者からの問い合わせ対応、地域状況の分析を行う。

また、受信契約の契約・収納業務を行う。

##### ②地域スタッフ

委託契約に基づき、受信料の契約・収納業務を行う。

##### ③法人委託

委託契約に基づき、受信料の契約・収納業務を行う。電器店や不動産会社等、契約業務のみを行う場合もある。

## I. 受信契約

### 1. 受信契約者の維持・増加活動

単身世帯等の面接困難世帯の増加等や経済状況の低迷等の影響により、営業活動を取り巻く環境はますます厳しさを増している。

こうした中で、法人事業者への契約・収納業務委託を段階的に拡大するなど効率的な営業体制の構築を図るとともに、未契約・未収者への早期対応に向け、携帯端末に登録した情報に基づいた活動や、面接好適時間帯における対策に積極的に取り組んだ。

さらに、衛星放送の普及促進に不可欠なケーブルテレビ事業者や電器店等と連携した活動や、マンション入居者対策として不動産事業者との業務委託による契約取次活動を展開した。

そのほか、BSデジタル機器に同梱される「ファーストステップガイド」への衛星契約書の封入やCASメッセージ機能やダイレクトメールを活用した契約勧奨、「受信料の窓口」（インターネット営業センター）や「NHKフリーダイヤル」による受信契約・住所変更の受け付けを行った。

13年度の契約総数（有料無料計）は、年間で58万件増加し、年度末における契約総数は4,141万件（有料無料計）となった。

### 2. 事業所などの受信契約

家庭に設置されたテレビなど受信機の受信契約は、受信機の台数にかかわらず1世帯1契約としているが、会社・官公庁・ホテル・旅館・病院などいわゆる事業所の場合は、テレビの設置場所ごとに受信契約が必要となっている（放送受信規約第2条）。

13年度は、12年度に引き続き、同一敷地内全数契約を条件とした事業所割引や業界団体への業務委託を活用するなど、公平負担の徹底に向けたきめ細かい活動を全国的に展開した。

その結果、年間で16万件的受信契約件数の増加となり、年度末の事業所契約件数は277万件となった。

### 3. 営業システム

受信料の請求、収納など営業活動の支援は、「EGGSシステム」を活用して行っている。

消費税率改定に伴うシステム開発やテスト、新料額の視聴者データベースへの反映、精算差額の算出と精算、営業担当者のための手順書作成と全国周知等についてきめ細かく対応した。

さらなる営業業務の効率的・効果的な推進を目指し、最新技術を導入した次期携帯端末の開発、民事業務へのシステム支援、EGGS端末の更新、CAS対策スキーム変更、受信料一括収納（tabalまるごと決済、Yahoo! 公金支払い）等を実施するとともに、拠点体制見直し等、重要課題へのシステム検討および対応を進めている。

インターネットによる自主申し出の拡大に向けては、手続きページのユーザビリティ改善により視聴者のニーズに合わせた利便性の向上と取次数の増加を図っている。

## II. 受信料の収納

### 1. 口座振替など間接収納の促進

受信料の収納は、口座振替・クレジットカード継続払・継続振込によって行っている。

近年、単身世帯や共働き世帯の増加、オートロックマンションの普及などにより面接困難世帯の割合が高くなり、営業活動の困難度も増している。

こうした中で、収納の安定化や効率的業務推進のため、これまで口座振替の拡大を進めてきたが、06年6月からは「クレジットカード継続払」の支払いを開始し、13年度末の利用件数は413万件となった。

振込用紙発送時や新規の受信契約を取り次ぐときに、口座振替・クレジットカード継続払の利用勧奨を積極的に行っているほか、ダイレクトメールによる勧奨も実施している。

12年度末の口座振替・クレジットカード継続払による受信料支払い件数は3,068万件で、これらの利用割合は79.2%となった。

### 2. 受信料の収納体制

①口座振替は、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協、ゆうちょ銀行が利用可能となっている。

②クレジットカード継続払は、13年度末時点で20ブランドのカードが利用可能となっている。

③継続振込の取り扱い窓口は、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、農協、コンビニエンスストア、ゆうちょ銀行または郵便局である。

このほか、ケーブルテレビ事業者による受信料「団体一括支払」制度により、収納の効率的な推進に努めた。

### 3. メッセージ機能の活用強化

BSデジタル放送の設置確認を効果的に行い、受信料の公平負担を徹底するため、BSデジタル放送のテレビ画面に、BS受信機の設置についてNHKへの連絡を促す設置確認メッセージを表示している。

BSデジタル放送の視聴開始30日後から、NHKのBSデジタル放送にチャンネルを合わせるたびに、テレビ画面の左下隅に設置確認メッセージが表示される。

画面に表示されたいずれかの方法で、B-CAS（ビーキャス）カード番号、名前や住所などを連絡すると、設置確認メッセージ表示の消去を受け付ける。NHKでは、この情報を基に、契約状況を確認し、衛星契約が済んでいない方には、契約の依頼を行っている。さらに、受信機設置の連絡後、一定期間を経てもなお衛星契約の届けがない場合に契約案内メッセージを表示する運用を10年12月から開始している。

#### 【受信機設置のご連絡のお願い】

NHKでは、衛星契約済みの方も含め、衛星放送受信機ごとに、設置のご連絡を願っております。メッセージの消去方法は、リモコンの青ボタンを5秒以上押しと表示されます。

電話の場合は0120-933-933

また、BSデジタル受信機にこん包されている「BS デジタル機器設置連絡票」を、受信機購入後速やかに投かんしてもらえば、あらかじめ設置確認メッセージが表示されないようにすることもできる。

※B-CASカード

BSデジタル受信機には、ICチップのついたB-CASカードが必ず添付されている。



著作権を保護するコピー制御の仕組みがあるため、デジタル放送を視聴するためには、このカードを受信機の所定の場所に差し込む必要がある。このカードの機能により、メッセージの表示のほかに、WOWOWなどのスクランブル放送や、高度な双方向サービスといったBSデジタル放送の魅力的なサービスを、十分に楽しむことができるようになっている。

## Ⅲ. 視聴者との回路作り

### 1. 視聴者との結び付き強化

#### (1) 受信料の支払率向上に向けた視聴者対応

公開番組や各種イベント開催時など、視聴者と直接触れ合う場において受信料の支払率向上に向け、公共放送・受信料制度への理解促進と的確な視聴者対応を行うことができるよう、リーフレット等の充実に努めた。

##### ①理解促進ツールの拡充

公共放送・受信料制度に対する理解促進については、リーフレット以外にもインターネットホームページを積極的に活用し、支持層の拡大を図った。また、公開番組の収録時において、開演前のあいさつを兼ねた受信料制度の説明や大画面での理解促進ビデオ上映などを行った。

##### ②地域スタッフへの情報提供と研修

地域スタッフが視聴者を訪問する際に、ニーズに応じた番組の案内ができるように、毎週の番組情報を定期的に提供するとともに、新番組の上映会や番組制作担当者による番組説明会を開催した。さらに、視聴者との対応スキル向上、視聴者の立場に立った営業活動の在り方、番組情報などを内容とする研修ビデオを制作した。

#### (2) 放送番組などを活用した視聴者対応

全国各地の放送局において、放送番組やイベントを通じて視聴者と積極的な交流を図り、デジタル放送の普及、公共放送の理解促進に努めた。

##### ①公開番組・イベントと連動した営業活動

各地の視聴者との交流を図るため、公開番組や各種イベントと連動した営業活動を実施する「エリアターゲット」を全国で展開したほか、地域向け放送などを通じ、地域放送局が主体となって幅広い理解促進活動を実施した。

##### ②デジタル放送の普及促進活動の展開

地上・BSデジタル放送に関する情報を番組やホームページで周知するほか、「NHK・番組体感ランド」などのイベントを通じて地上・BSデジ

タル放送の一体的な普及促進を図った。

## 2. 視聴者の意向吸収と業務への反映

### (1) 視聴者意向の吸収

職員や地域スタッフ、委託法人などによる訪問活動や電話対応など日常の営業活動の中で、視聴者意向の吸収に努めた。

### (2) 視聴者意向の業務への反映

番組に対する視聴者の反響や意見については、番組改定時における番組制作や編成業務の参考資料として活用している。

## 3. NHKふれあいセンター（受信料関係）

東京・大阪・福岡・仙台の4つのふれあいセンター（営業）で、視聴者からの電話による「放送受信契約の申し出」「受信料関係の問い合わせ」の受付業務を実施した。毎年多くの転居連絡を受ける4月の引っ越しシーズンには手厚い対応体制を整えたほか、14年4月からの消費税率の引き上げに伴う受信料額の改定についての数多くのお問い合わせに対しても迅速・正確な対応を行うように努めた。一方で、口座振替の利用勧奨や継続振込等の入金依頼など、受信契約者へのアウトバウンド業務も積極的に展開した。

また、東京のふれあいセンター（営業）では、インターネットによる受信契約や住所変更、受信料の支払方法変更などの申し出に対応する「インターネット営業センター」業務を行ったほか、BSデジタル放送の「メッセージ消去」については、メッセージ消去の受け付けと同時に衛星契約の届け出を受理する取り組みを促進した。